

目 次

平成27年度年報

はじめに…1

沿革…2

1. 国際交流推進事業

1-1. 海外拠点支援事業

1-1-1. チリ拠点…5

1-1-2. タイ拠点…7

1-1-3. ガーナ拠点…24

1-2. 国際交流協定関連業務…26

2. 教育活動

2-1. 日本語教育 順天堂留学生の参加を含む

2-1-1. 担当教員…31

2-1-2. 日本語研修コース…31

2-1-3. 日本語補講コース…34

2-1-4. 留学生による「Travelling around the World in 30 minutes」…34

2-1-5. 日本人学生による「Travelling around Japan in 30 minutes」…35

2-1-6. 日本文化理解活動…36

2-1-7. 順天堂大学との交流…37

2-1-8. オリエンテーション…38

2-2. 補助金等事業

2-2-1. スーパーグローバル大学創成支援事業…39

2-2-2. 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業…45

2-2-3. 大学の世界展開力強化事業…60

2-2-4. 東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業

-歯学教育の標準化を目指して…67

2-2-5. ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）の開設…73

2-2-6. 公益財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業

…75

3. 地域連携

3-1. 市川市内の学校との交流…77

3-2. 千代田区内との学校の交流…79

巻末資料

第2回 東京医科歯科大学・バンコク病院共催 無料「家族の健康セミナー」…81

はじめに

国際交流センター長 森尾郁子

本学の国際交流・貢献については、吉澤靖之学長のリーダーシップの下、3つの海外拠点（チリ、タイ、ガーナ）の事業をさらに推進させる中で、チリ大学、チュラロンコーン大学大学院とのジョイント・ディグリーコースに関しては、本年11月26日に両校の関係者を招聘して、開設に関する協定書の合同調印式が行われた。

平成24年度から4年間の事業として行っている特別経費プロジェクト「東南アジアにおける歯学教育研究拠点推進事業」では、12月に東南アジア諸国連合（ASEAN）域内で歯科医師免許の許認可に関わる組織から代表者を招いて「歯学教育標準化委員会」を開催し、情報・意見交換を行った。その他補助金事業として、平成24年度より行っている「大学の世界展開力強化事業」（平成24年度～28年度）では、学生交流を中心とした事業が引き続き積極的に展開され、プログラムの更なる充実のために、他資金の獲得にも力を入れた。「グローバル人材育成推進事業」（平成24年度～28年度）では、学部学生に限らず大学院生、職員の英語力強化の取り組みが進んだ。スーパーグローバル大学タイプA採択校として、学内の国際化に向けての動きが加速化している。

第7回目となる国際サマープログラム（ISP2015、平成27年8月28日～9月3日）では、過去6回の実施により本学の知名度向上、優秀な留学生獲得という目的に対して、一定の成果があがったことから、今年度からは「外国人留学生に対するオープンキャンパス」として期間を延長し、本学学生が主体となってイベントの企画や発表を行う機会を設けた。訪問学生と本学学生との交流機会を増やすことで、本学学生の自立心や国際感覚を涵養し、キャリア形成の機会を提供することに繋がればと願っている。

平成28年度から始まる第3期中期目標・中期計画において、学内の国際化をさらに推進するため、平成27年度末には「統合国際機構」が設置された。7年前の「国際交流センター」設置時には留学生受入に係る部署が入っていたが、その後は学務系、学生支援系部署へと移動したが、「統合国際機構」になって、また、戻って来ることとなった。日本人学生海外派遣と共に留学生受入は国際交流活動の大学の窓口として、大きな役割を担っており、「統合国際機構」ではGlobal Gatewayとして位置づけられ、今後の大学の国際化にとって重要な役割を担うことが期待されている。

沿 革

国際交流センターは、平成12年4月1日に国立大学としては32番目、医歯学系大学として初めて発足した「留学生センター」を、平成21年4月1日に改組し、新たにスタートした。本学では、これまでも、多くの学術・学生交流協定が締結されてきたが、それらは各部局単位で実施されていたためトータルな情報把握が充分ではない点もあり、国際交流センターが、本学の国際交流を一括して管理することを始めた。

本学へ理解があり、母国の医療界で活躍している留学生との繋がり、本学にとって貴重な財産である。しかし、残念ながら帰国留学生との連絡が途絶えているケースがあるため、留学生に関するデータを一括管理し、彼らとの交流を継続させることによって、彼らを本学の国際化推進のサポーターと位置付け、彼らから本学の教育研究における課題を学び、教育研究のさらなる向上を図ることとした。

さらに、これからは留学生が来るのを待つだけではなく、世界中から優秀な人材を積極的に獲得することも必要である。そのため、平成21年度より国際サマープログラム（ISP）を開催し、本学に関心のある留学生を招聘するとともに渡日時に入試を行い、本学大学院に入学を希望する留学生を受け入れる取組みを実施している。留学前に十分な情報を与えられ留学してきた学生の満足度は高く、国際交流センターでは、事前の情報提供や適切な受入分野への橋渡し、留学中の相談サービス、留学後のフォローとさらに一貫した支援システムの構築を目指している。

平成22年12月には駿河台研究棟から1号館西4階に移転し、外国人留学生に対する日本語教育、本学の海外拠点の活動支援のほか、本学の国際交流に関する事業を推進している。

平成24年度には国際化拠点整備事業費補助金「大学の世界展開力強化事業」及び「グローバル人材育成推進事業」が採択され、当センター内にグローバルキャリア支援室を新たに設置するなど、事業推進の体制を整備し、国際交流活動を支援している。

平成26年度には、吉澤学長が就任し、国際交流・国際展開・国際協力の各担当理事が置かれた。また、「スーパーグローバル大学創成支援事業」（タイプA：トップ型）にも採択され、本学の国際化に対する支援体制をより一層充実させ、世界に通用する外国人学生及び日本人学生育成がさらに重要になってきているところである。

平成27年度には、ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を本学大学院医歯学総合研究科に設置したほか、本学の国際化に寄与する活動が実施された。国際化を更に進展させることを念頭に、各部局に分散していた国際関連部局を統合・再編し、平成28年3月に「統合国際機構」を発足させる予定である。

国際化に関する大学の中期目標・中期計画(平成22年度～27年度)

国際化に関する目標

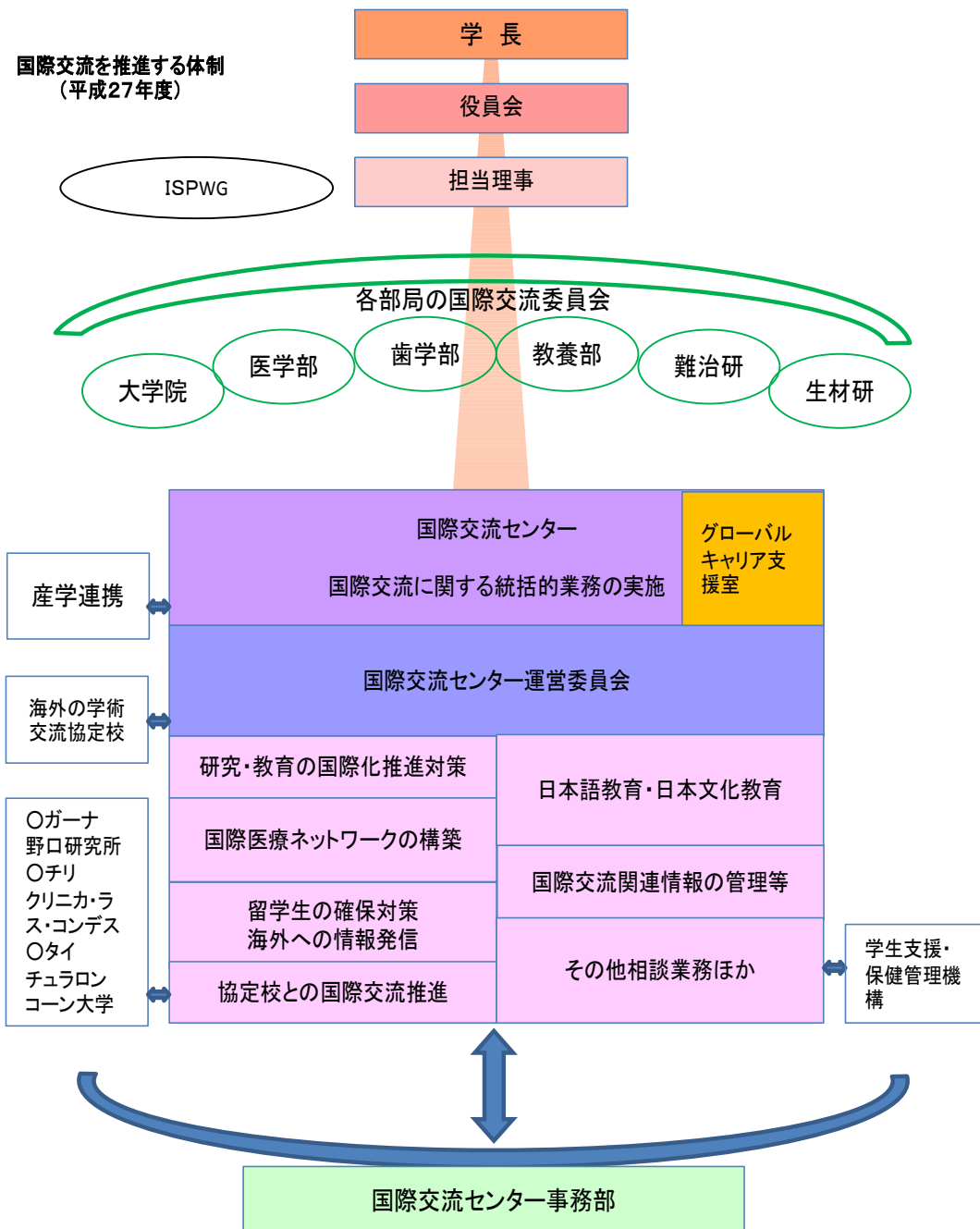
○国際化に関する基本方針

- ・国際化を推進するために学内環境の整備を行うとともに、教育、研究、医療を通じた国際貢献への取組みを推進する。

国際化に関する目標を達成するための措置

○国際化に関する計画

- ・国際交流センターを中心とした国際化を支援する学内体制を強化する。
- ・優秀な留学生確保のための活動を推進するとともに、秋季入学を拡充し、学習支援、経済的支援を充実する。
- ・国際教育研究拠点網を構築し、リカレント教育や共同研究の実施など国際貢献を推進する。
- ・医療の国際ネットワークを構築し、支援システムを整備するなど国際貢献を推進する。



国際交流センター所属教員					
森尾郁子 (センター長)	吉田 丘	David Richard Cannell	小野田勝次	米本和弘	石田雄之
竹原祥子	平石典子	Islam MD. Sofiqul			
グローバルキャリア支援室	高田和生 (支援室長)	Moross Janelle Renee	春山 怜	Carlson Rebecca Lynn	

国際交流センター運営委員会					
森尾郁子 (センター長)	David Richard Cannell	太田伸生	河野辰幸	川口陽子	秋田恵一
小野卓史	本田彰子	畔柳和代	川嶋健嗣	鐔田武志	吉田 丘

グローバル人材育成推進事業推進委員会					
田中雄二郎 (委員長)	高田和生 (副委員長)	稲瀬直彦 (～H27.11.10)	秋田恵一 (H27.11.11～)	大久保功子	窪田哲朗
泰羅雅登	品田佳世子	鈴木哲也	中島ひかる	森尾郁子	沢辺元司
小野卓史	Moross Janelle Renee	田上順次	山本正彦	吉田 丘	

大学の世界展開力強化事業運営委員会					
田上順次 (委員長)	江石義信	森山啓司	川口陽子	河野辰幸	小野卓史
吉田 丘	竹原祥子	石田雄之			

第7回国際サマープログラム(ISP2015)ワーキンググループ					
田上 順次 (座長)	木村彰方	山岡昇司	北川昌伸	小野卓史	影近弘之
川嶋健嗣	鐔田武志	森尾郁子	David Richard Cannell	米本和弘	吉田 丘

東南アジア医歯学教育研究拠点推進事業委員会					
田上順次 (委員長)	森山啓司	川口陽子	木下淳博	森尾郁子	高田和生
江石義信	吉田 丘				

1. 国際交流推進事業

1-1. 海外拠点支援事業

1-1-1. チリ拠点

①. 大腸癌早期診断プロジェクト (PRENEC)

メインプロジェクトである PRENEC は平成26年度と同様、チリ国内3都市（サンティアゴ、プンタアレナス、バルパライソ）で継続され、チリ拠点教員（椿特任教授、小田柿助教）が指導した。指導対象は3ヶ月交代で派遣される研修医を中心とし、サンティアゴ、プンタアレナスでは挿入困難症例への対応、内視鏡治療を実践した。岡田助教が執筆中であったPRENECの成績に関する英語論文は平成27年10月にCancer誌に掲載された。

②. 講習会・学会への参加

平成27年5月8-9日に開催されたプエルトモンテでの講習会、9月3-4日に開催されたラセレナでの講習会に椿特任教授、小田柿助教が参加し講演を行った。7月4日バルセロナで開催された17th World Congress on Gastrointestinal Cancerにおいて椿特任教授がPRENECの成績について発表を行った。小田柿助教は同時期バルディビアでの講習会に参加し講演を行った。

平成28年3月9-11日リマにて開催された第12回国際外科学会、3月30日-4月1日にサンティアゴで開催された第6回ENDOSURに小田柿助教が参加し講演を行った。

③. チリ大学等での講演

チリ大学において椿特任教授が講演を行った。TMDUとチリとの長い交流の歴史を中心に、プロジェクトの紹介、日本の大腸外科の標準術式などを説明した。8月下旬、在智日本大使館からの依頼で、二階大使と共に、椿特任教授、小田柿助教、ロペス医師、エステラ医師がチリ保健大臣を訪問し、椿特任教授がプロジェクトの概要を説明し、保健省の協力が継続して得られるように要請した。また7月14日には日智商工会議所に於いて本プロジェクトの概要、大腸癌検診の重要性などについて椿特任教授が講演した。

④. JICA主催による第三国研修会での指導

平成27年8月17-21日の第三国研修で、内視鏡部門では拠点から椿特任教授、小田柿助教が、病理部門では熊谷二郎医師（横浜みなと赤十字病院）、伊藤崇医師（TMDU）が日本から訪れ、それぞれ講師として参加し、エクアドル、コロンビアからの参加者に講習を行った。椿特任教授、小田柿助教はサンボルハ病院で大腸内視鏡のデモンストレーションも行った。

⑤. JICA第三国研修後のモニタリング出張

平成28年3月10-12日、JICA第三国研修後の評価目的でロペス医師と共に小田柿助教がコロンビアのボゴタに出張した。PRENECプロジェクト導入に向けての準備が始まっており、ロサリオ大学医学部附属マジョール・メデリ大学病院にて、第三国研修に参加した同院医療チームのメンバー、同院経営幹部及び政府関係者と今後に向けての話し合いを行った。

⑥. エクアドルとの共同講習会参加

平成27年9月15日にエクアドルと共同で開催した講習会にテレカンファランスの形式で参加し、椿特任教授、小田柿助教が講演を行った。

⑦. ジョイントディグリープログラム(JDP)開設に向けた準備と支援

平成28年4月からのJDP開始に伴い、チリ大学クルジャン医学部長、オライアン医師、CLCゴイコレア医師、ロペス医師がTMDU客員教授に任命され、椿特任教授が任命証を授与した。

JDPの円滑な開始を目指したチリ側と日本とのテレビ会議に椿特任教授、小田柿助教が参加し、椿特任教授はTMDUで開催されるJDP調印式へ参加するCLCの医師を決定する医師選考会議にも出席した。平成27年11月26日にJDP調印式が日本で開催された。

1-1-2. タイ拠点

①. 三大学共同研究発表会（三大学コンソーシアム）

平成 27 年 5 月 20 日及び 21 日の 2 日間、チュラロンコーン大歯学部において、本学歯学部、チュラロンコーン大学歯学部、北京大学歯学部の三大学コンソーシアムによる研究発表会が行われた。本コンソーシアムは平成 23 年から行われていたが、協定が失効し、改めて今年度より 3 年間の研究発表会が行われるようになった。今年はチュラロンコーン大学、来年は北京大学、再来年は、本学の順番で開催される予定である。今回も三大学から多くの先生、大学院生が参加した。



MOU 署名後の三大学の歯学部長（左から郭歯学部長、スット歯学部長、森山歯学部長）



MOU 署名後の参加者一同

②. アセアン・デンタル・フォーラム

平成 27 年 5 月 21 日及び 22 日の 2 日間、チュラロンコーン大学歯学部 75 周年記念事業として、チュラロンコーン大学歯学部で、アセアン・デンタル・フォーラムが行われた。このフォーラムには、ブルネイを除くアセアン各国の署名な歯学関係者が集まった。参加者の中には、本学の協定大学の歯学部長、本学で行った東南アジアにおける医歯学教育研究拠点事業の国際会議の参加者やアセアン事務局の代表者が参加していた。会議の主なテーマは、共通のカリキュラム、コンピテンシーであり、EU の現状に関する報告のほか、本学の田上順次理事による本学の「東南アジアの歯学教育標準化に向けた取組み」に関する報告が行われた。席上からは、発表スライドをカメラに収める参加者が見受けられた。



参加者による質疑応答



田上理事の講演

③. 田上順次理事・副学長がマヒドン大学から名誉博士号授与

平成 27 年 9 月 7 日、マヒドン大学の卒業式が行われ、本学の田上順次理事・副学長はマヒドン大学から長年の業績が評価され、名誉博士号が授与された。田上理事・副学長は、歯学の研究業績のみならずマヒドン大学歯学部からの留学生を数多く指導していた。タイの国立大学の卒業式では、王族から卒業生一人一人に卒業証書が授与される共に名誉博士号の授与も行われた。



シリントン王女から名誉博士号を授与される田上理事・副学長



左からパシリ・マヒドン大学歯学部長、田上理事・副学長、ウドム・マヒドン大学学長



田上理事・副学長を囲んで、本学卒業生のマヒドン大学教員、ウドム学長、パシリ歯学部長他による記念写真

④. 第4回タイ在留邦人向け健康セミナー

平成27年6月13日、バンコク病院と共催で在留邦人向け健康セミナーを開催した。今回の健康セミナーは、バンコク病院の要望を受け、精神保健学の学生支援・保健管理機構保健管理センターの平井伸英准教授、大学院医歯学総合研究科う蝕制御学分野の保坂啓一助教及び元留学生で本学客員教授のバンコク病院ワタナソット癌センター所長のテラブッド先生が講演を行った。会場には70名以上の在留邦人が参加し、日本大使館からも吉村浩医務官が参加した。



講演中の平井准教授



講演中の保坂助教



講演中のテラブッド所長

⑤. チュラロンコーン大学歯学部、北京大学歯学部及び本学歯学部の三大学
コンソーシアム

平成 27 年 5 月 20 日、チュラロンコーン大学歯学部において、同大学歯学部、
北京大学歯学部及び本大学歯学部による三大学コンソーシアムの協定書の調印
式が行われ、5 月 20 日、21 日にかけて三大学の教員による講義や大学院生、学
生による研究発表会が行われた。今後は、北京大学、本学の順で幹事大学になり、
毎年三大学合同で学生、大学院生の研究発表会等を行うことになる。

この研究発表会及び引き続き行われたチュラロンコーン大学歯学部 75 周年記念
行事には、本学から 19 名の学生、大学院生のほか、下記の教員が参加した。この
他、江藤一洋元歯学部長が参加した。

参加教員（敬称略）：田上順次、森山啓司、若林則幸、宇尾基弘、森尾郁子、
和田淳一郎、河村隼、平石典子、小野田勝次



三大学歯学部長による協定書の調印



調印式で挨拶する森山歯学部長



協定書署名後の三大学関係者による記念写真

⑥. チュラロンコーン大学歯学部 75 周年記念シンポジウム
(アセアン・デンタル・フォーラム)

平成 27 年 5 月 22 日、チュラロンコーン大学歯学部において同学部 75 周年記念シンポジウムが行われ、東南アジア諸国連合（アセアン）の各大学歯学部関係者の他に本学が招かれた。本学からは、田上順次理事・副学長、森山啓司歯学部長、森尾郁子国際交流センター長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が参加した。シンポジウムのテーマは、アセアンにおける歯学教育の調和をどのように図るかというもので、本学が行なってきた東南アジア歯学教育標準化事業と深い関係があるチュラロンコーン大学の依頼により、田上理事・副学長が本学の事業を紹介した。活発な討議ののち、本学の事業の紹介も踏まえ、シンポジウムの取りまとめとして、チュラロンコーン大学からアセアン・デンタル・フォーラム設立の提案があり、参加者一同の賛同を得て承認された。参加した本学関係者は、上記三大学コンソーシアム参照。



シンポジウムで質問に答える森尾国際交流センター長

⑦. チュラロンコーン大学保健科学部における学生研修

昨年に引き続き平成 27 年 8 月 26 日から 9 月 6 日まで本学大学院保健衛生学研究科の大学院生及び医学部保健衛生学科の学生計 4 名がチュラロンコーン大学保健科学部において、保健衛生分野の研修と文化交流を行なった。今回は、チュラロンコーン大学が行っているサラブリー県での住民の血液検査等のボランティア活動にも同行した教員と共に参加した。参加した本学関係者は次のとおり（敬称略）。

教員：沢辺元司、馬淵洋、小野田勝次

学生：生駒勇人（修士 1 年）、菊池みなみ（3 年）、柿沼都（同）、
小池史華（同）



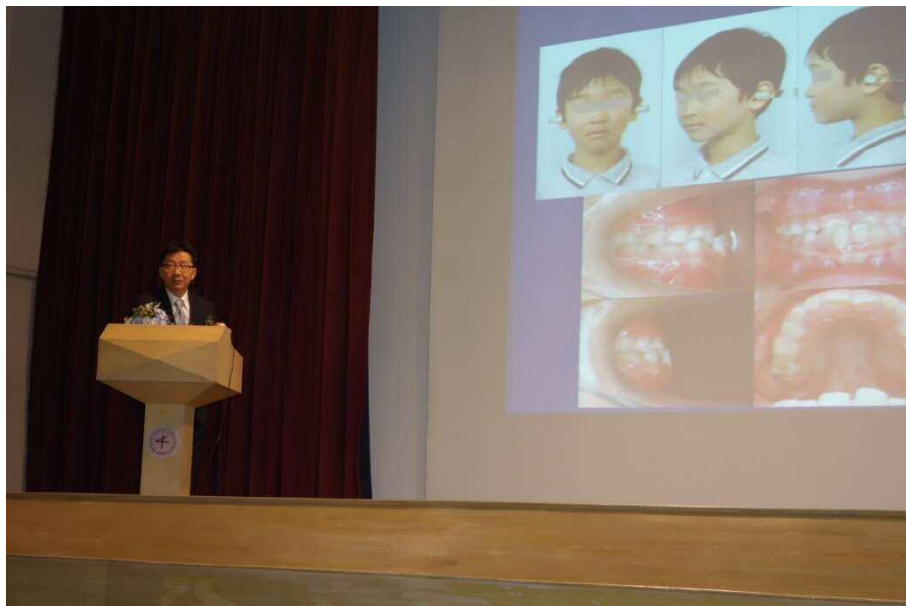
タイ赤十字献血センター前の記念写真



国王記念病院での採血現場での研修風景

⑧. シーナカリンウィロート大学歯学部 21 周年記念行事

平成 27 年 8 月 24 日、バンコクにあるシーナカリンウィロート大学で行われた同大学歯学部創立 21 周年記念行事に来賓として、本学から森山啓司歯学部長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が招待された。今回は、8 月 17 日のエラワン廟爆破事件があったためシーナカリンウィロート大学関係者の危惧があったものの、森山教授の記念講演には同大学関係者のほか、他大学の矯正歯科学関係者、タイ矯正歯科協会の関係者など 200 人近くが参加した。



講演中の森山歯学部長



熱心に講演を聞き入る参加者

⑨. ペチャラ教授に本学の名誉博士号授与

平成 28 年 2 月 11 日、チュラロンコーン大学本講堂にて、平成 3 年本学が最初にチュラロンコーン大学歯学部と学術協定を締結した時の歯学部長であったペチャラ先生に、これまでの功績を称え本学の名誉博士号授与式が行われた。ペチャラ先生は、ご高齢の為に来日が出来なかったため、タイで式典を行っていただきたいとの要望があり、今回タイで実施した。当日は、70 名近くの関係者、本学留学生ほかが出席した。式では田中雄二郎理事兼副学長から名誉博士号がペチャラ先生に授与され、式典後祝賀会が行われた。



⑩. マヒドン大学と大学間学術交流協定署名式

平成 28 年 2 月 26 日、本学において、来日したマヒドン大学ウドム学長と吉澤学長の間で、本学とマヒドン大学の大学間学術交流協定書が締結された。これは、タイでの初めての大学間協定となり、本学とマヒドン大学の複数の学部、研究所の交流が盛んになることが期待されている。



⑪. チュラロンコーン大学歯学部と学術交流協定署名式

平成 28 年 2 月 11 日、チュラロンコーン大学スチット歯学部長及び本学森山啓司歯学部長との間で、両歯学部間の学術交流協定書の署名式が行われた。これは、今まで締結されていた学術交流協定の延長によるものであり、両大学の歯学部間の学術交流が更に盛んになることが期待される。



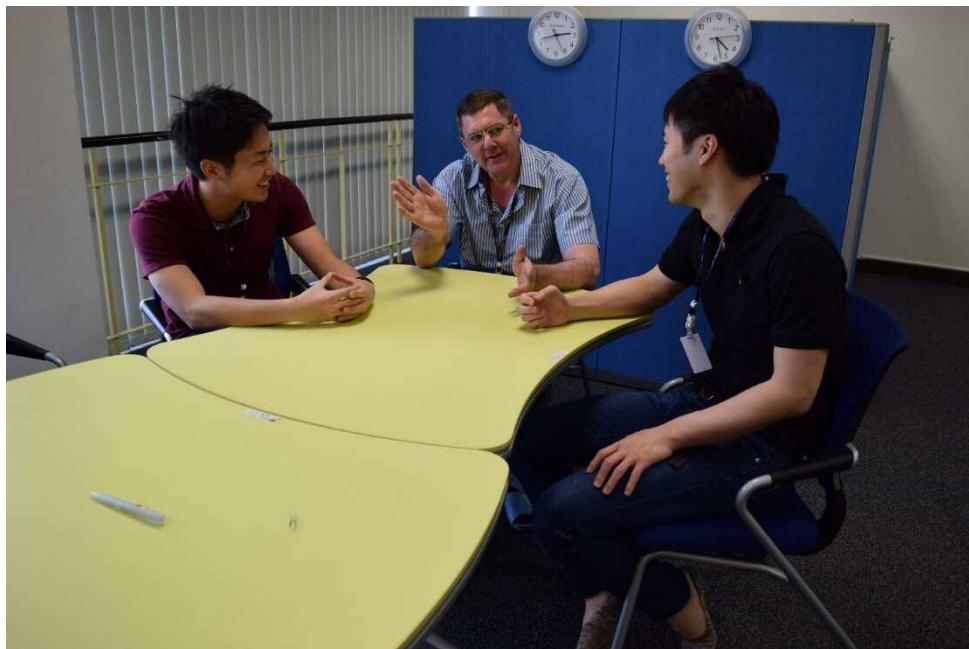
⑫. チュラロンコーン大学歯学部のリサーチディに参加

平成 28 年 1 月 27 日、チュラロンコーン大学歯学部にて行われた同大学リサーチディに井関祥子教授（分子発生学分野）、森田圭一助教（顎口腔外科学分野）、歯学部歯学科 5 年生の井神優太さん、折笠紫音さんが参加した。井関教授は、口演発表に審査委員に、森田助教は、ポスター発表の座長を務めた。学生 2 人は口演発表を行ない、折笠さんが部門賞を受賞した。



⑬. チュラロンコーン大学歯学部における学生研修

平成 28 年 1 月 25 日から 31 日まで、歯学部歯学科 5 年生の井神優太さん、折笠紫音さんがチュラロンコーン大学で研修を受けた。研修は、上記のリサーチデイでの発表の他にチュラロンコーン大学での研修、パクレットの孤児院における歯科健康教育などで構成されていた。



⑭. グローバル人材育成（英語教育）の調査

平成 28 年 2 月 15 日から 18 日まで、森尾郁子国際交流センター長兼教授（歯学教育開発学分野）、小野田勝次国際交流センター特任准教授、柴田真希国際交流課職員は、アセアン大学ネットワーク、タイ歯科評議会、チュラロンコーン大学語学センターなどにおいて、グローバル人材、英語教育に関する調査を行なった。



⑩. シーナカリンウイロート大学歯学部における学生研修

平成 28 年 3 月 5 日から 13 日まで、歯学部歯学科 4 年の三澤英里さん、木村友昌さん、同 3 年の近藤愛里さん、柰屋雅弘さんは、シーナカリンウイロート大学歯学部において研修を受けた。研修では、同歯学部の他にシーナカリンウイロート大学のキャンパスのあるナコンヨーク県での住民への歯科健康教育活動にも参加した。



⑰. その他の東南アジアでの活動

i. ホーチミン医科薬科大学でのE・ラーニングセミナー

平成27年6月2日、ベトナムのホーチミン医科薬科大学歯学部において木下淳博図書館情報メディア機構長、須永昌代図書館情報メディア機構助教、關奈央子大学院歯学教育開発学分野助教により、同大学歯学部関係者に対するE・ラーニングのセミナーが行われた。会場には多くの関係者がパソコンを持参して集まり、熱心にE・ラーニング、その教材の使い方、作り方を学んでいた。



講義中の木下図書館情報メディア機構長



個別指導中の須永助教

ii. インドネシアでの歯科健康セミナー及び相談会

平成 27 年 7 月 27 日、ジャカルタ日本人学校と共催で、在留邦人の歯科健康セミナー及び歯科相談会が開催された。本学教員のほか、本学元留学生であるインドネシア大学教員が参加した。ジャカルタ日本人学校は、ジャカルタ市に隣接するタンゲラン州の公共交通手段がない場所に設置されている。当日、参加した約 70 名の在留邦人は、車にて参集した。齋藤校長の挨拶後、藤田助教による小児歯科、簡野講師による矯正歯科、平石特任助教によるう蝕制御の講演があり、後半は小児歯科、矯正歯科、口腔再生歯科、欠損補綴歯科によるワークショップと個別相談が行われた。

参加した本学関係者は次のとおり（敬称略）。

教員：藤田晴子、簡野瑞誠、黒田真司、駒ヶ嶺友梨子、平石典子、
小野田勝次

職員：三原智樹（国際交流課）、進藤優作（同）



小野田特任准教授の趣旨説明



簡野講師によるワークショップ

iii.インドネシアでの留学募集説明

8月12日から15日までインドネシアのバリ島で行われた「第26回東南アジア歯学教育年次科学会議(SEAASE)」及び「第29回国際歯科研究会アジア太平洋地区年次科学会議(IADR-APR)」の会場のブースにおいて本学留学希望者への募集説明を行ないました。アジアに加えて、中近東、アフリカほか、各地からの参加者が本学ブースを訪問してくれました。IADRの会長も訪問してくれました。立ち寄った学生から本学への留学方法、奨学金などの質問があり、本学の教職員、留学生が熱心に答えました。

参加した本学関係者は次のとおり（敬称略）。

教職員：森山啓司、平石典子、イスラム・ソフィクル、小野田勝次

留学生：ルオン・ダオ・ミン・ニュエット（ベトナム）、

アンマシタ・マンダサリ（インドネシア）、

イー・イー・アン（ミャンマー）



留学相談を受けるイスラム特任助教（右）



ブースを訪問したイブラヒム SEAASE 会長（左から2人目）

1-1-3. ガーナ拠点

平成 27 年度はガーナ拠点運営経費が文部科学省から日本医療研究開発機構 (AMED) の委託費へと変更となり、受託研究事業課題も変更されたため、新規の運営体制で活動を行った。

①. 拠点運営体制：

ガーナ・野口記念医学研究所への派遣教員 1 名（大橋光子・特任講師）及び事務補佐員 1 名（志村まゆみ）としたが、平成 28 年 2 月に事務補佐員は松尾真由美に交代した。また、拠点事業専任教員として井戸栄治・特任教授を国内に配置した。更に、「開かれた海外拠点」という AMED の方針下に、ガーナ拠点に国立感染研、長崎国際大学、藤田保健衛生大学からの参加も得た。

②. 研究活動：

AMED からの受託研究としてデング熱・チクングニア熱、下痢症、ガーナ拠点強化の三課題研究を実施した。

i. デング熱・チクングニア熱：

ガーナ国内のデング熱、チクングニア熱の発生動態に関する基礎調査として、保存してあった不明熱患者血清 335 例を、抗デング熱、抗チクングニア熱抗体検出 ELISA に供し、さらにデング熱ウイルス NS-1 抗原陽性例から RT-PCR によるウイルス遺伝子増幅を行い、4 例が陽性であった。2 例はデング熱ウイルス 1 型、他の 2 例が 3 型であった。チクングニア熱ウイルスの RT-PCR 陽性例はなかった。媒介蚊の調査として、アクラ周辺のネッタイシマカを収集して、デング熱ウイルスを含むウイルス保有状況を調査した。デングウイルス保有個体は見いださなかったが、新規のアルボウイルス保有蚊を検出した。

ii. 下痢症：

ガーナ国内の 5 歳未満小児の下痢サンプルからウイルス、細菌、寄生虫の病原体分離を試みることにして、従来法による病原体検出アプローチと、Taqman-Array Card による OCR スクリーニングによる実施体制を整えた。初年度はトライアルとして下痢サンプルは 50 例に止め、それぞれの方法による病原体検出の効率、信頼度等に関する比較を行って、基礎資料の整備を進めた。ガーナの小児下痢サンプルからはロタウイルスの検出頻度が最も高かったが、一方で複数病原体の検出頻度も高く、疫学的には複雑な構成であることが示唆された。

iii. ガーナ拠点強化の研究：

ガーナ産植物由来精製標品のアフリカの寄生虫病に対する効果を In vitro 及び In vivo で調べるとともに、薬効機序解析を進めた。現在までアフリカトリパノソーマ原虫、マラリア原虫、リーシュマニア原虫に対する効果を明らかにし、そのユニークな薬効機序を明らかにした。成果は論文で発表した。

以上の成果は野口研で組織された **Steering Committee** による外部評価を受け、提言がなされた。

③. 人材育成活動：

今年度は本学から博士課程大学院生を派遣し、現地での野外調査を実施した。

また、医学部医学科 4 年生のプロジェクトセメスターは、ガーナ拠点実施体制変更がわかっていたため、学生の派遣は見送られた。

④. 本学の実施体制：

ガーナ拠点推進委員会及びガーナ拠点コアメンバー会議を組織し、後者は毎月 1 回開催して進捗管理と課題解決の協議をおこなった。

1－2. 国際交流協定関連業務

協定校との交流実績

No.	系統	国・地域	協定先機関	人的交流実績
1	大学間	アメリカ	ネバダ大学リノ校 医学部	無
2	大学間	エクアドル	エクアドル保健省	無
3	大学間	タイ	チュラロンコーン大学	無
4	大学間	タイ	マヒドン大学	無
5	大学間	台湾	台北医学大学	無
6	大学間	チリ	クリニカ・ラス・コンデ ス病院及びチリ国保健 省	無
7	大学間	パラグアイ	パラグアイ国保健省及 びクリニカ・ラス・コン デス	無
8	医学系	アメリカ	ワシントン大学看護学 部	有
9	医学系	アメリカ	コロラド大学デンバー 校看護学部	無
10	医学系	イギリス	インペリアルカレッジ 医学部	有
11	医学系	イギリス	シェフィールド大学看護 ・助産学科	無
12	医学系	オーストラリア	オーストラリア国立大 学医学部及びジョン・ カーティン医学研究院	有
13	医学系	ガーナ	ガーナ大学健康科学部 野口医学研究所	有
14	医学系	カザフスタン	S.D.アスフェンディヤ ロフ・カザフ国立医科 大学	無
15	医学系	大韓民国	ソウル大学医学部	有
16	医学系	タイ	チュラロンコーン大学 医学部	有
17	医学系	タイ	マヒドン大学シリラー ト病院医学部	有

18	医学系	タイ	国立がんセンター	無
19	医学系	タイ	チュラロンコーン大学 保健医療学部	有
20	医学系	タイ	チェンマイ大学医学部	有
21	医学系	台湾	国立陽明大学看護学部	無
22	医学系	台湾	台北医学大学医学部	有
23	医学系	台湾	台湾国防医学院医学部	有
24	医学系	台湾	国立台湾大学医学部	有
25	医学系	チリ	アウストラル大学医学 部	無
26	医学系	チリ	チリ大学医学部	無
27	医学系	デンマーク	コペンハーゲン大学大 学院薬学研究科	無
28	医学系	フィンランド	セイナヨキ応用科学大 学	有
29	医学系	フィンランド	タンペレ大学健康科学 部	無
30	歯学系	アメリカ	ペンシルベニア大学歯 学部	有
31	歯学系	アメリカ	ハーバード大学歯学部	有
32	歯学系	アメリカ	カリフォルニア大学サ ンフランシスコ校歯学 部	有
33	歯学系	アメリカ	ノースキャロライナ大 学歯学部	無
34	歯学系	アメリカ	タフツ大学歯学部	有
35	歯学系	アメリカ	ボストン大学歯学部	有
36	歯学系	イギリス	キングスカレッジロン ドン歯学部	有
37	歯学系	インドネシア	インドネシア大学歯学 部	有
38	歯学系	オーストラリア	メルボルン大学健康科 学部歯学科	有

39	歯学系	オーストラリア	シドニー大学歯学部	有
40	歯学系	カナダ	マギル大学歯学部	無
41	歯学系	大韓民国	ソウル国立大学校歯科大学	有
42	歯学系	大韓民国	全南大学校歯学部	有
43	歯学系	大韓民国	慶北大学校歯科大学	無
44	歯学系	カンボジア	カンボジア健康科学大学歯学部	無
45	歯学系	シンガポール	国立シンガポール大学歯学部	有
46	歯学系	スウェーデン	ヨーテボリ大学サールグレンスカアカデミー歯学部	有
47	歯学系	スリランカ	ペラデニヤ大学歯学部	無
48	歯学系	タイ	チュラロンコーン大学歯学部	有
49	歯学系	タイ	マヒドン大学歯学部	有
50	歯学系	タイ	チェンマイ大学歯学部	有
51	歯学系	タイ	ソンクラ王子大学歯学部	無
52	歯学系	タイ	コンケン大学歯学部	無
53	歯学系	タイ	ナレスワン大学歯学部	有
54	歯学系	タイ	シーナカリンウィロート大学歯学部	有
55	歯学系	台湾	台北医学大学口腔医学院	有
56	歯学系	台湾	国立台湾大学医学部歯学科	無
57	歯学系	台湾	高雄医学大学口腔医学院	有
58	歯学系	台湾	台湾国防医学院歯学部	有
59	歯学系	台湾	中国医薬大学歯学部	有

60	歯学系	チェコ	マサリック大学医学部口腔科学科	有
61	歯学系	中華人民共和国	大連医科大学口腔医学院	有
62	歯学系	中華人民共和国	北京大学口腔医学院	無
63	歯学系	中華人民共和国	首都医科大学歯学部	有
64	歯学系	中華人民共和国	吉林大学口腔医学院	無
65	歯学系	中華人民共和国	同済大学口腔医学院	有
66	歯学系	中華人民共和国	内蒙古医学院	無
67	歯学系	中華人民共和国	四川大学華西口腔医学院	無
68	歯学系	デンマーク	コペンハーゲン大学健康科学部歯学科	無
69	歯学系	フィリピン	フィリピン大学マニラ校歯学部	無
70	歯学系	フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学歯学部	有
71	歯学系	ベトナム	ホーチミン医科薬科大学歯学部	有
72	歯学系	ベトナム	ハノイ歯科大学	有
73	歯学系	マレーシア	マラヤ大学歯学部	無
74	歯学系	ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	有
75	歯学系	モンゴル	モンゴル健康科学大学歯学部	有
76	歯学系	ラオス	ラオス国立大学医科学部歯学科	無
77	生材研	イギリス	ストラスクライド大学バイオエンジニアリングユニット	無
78	生材研	イギリス	ロンドン大学クイーンメアリー・アンド・ウエストフィールド校生体医用材料総合研究センター	無

79	生材研	スウェーデン	リンシェピン大学医用 生体工学科	無
80	生材研	タイ	チュラロンコーン大学 工学部	有
81	生材研	大韓民国	慶北大学校生体材料研 究所	有
82	生材研	中華人民共和国	北京大学口腔医学院	無
83	生材研	ブラジル	サンパウロ州立大学パ ウリスタ校	有
84	生材研	ポーランド	ポーランド科学アカデ ミーバイオサイバネテ ィクス・生体工学研究 所ならびにバイオサイ バネティクス国際セン ター	無
85	難研	シンガポール	国立シンガポール大学 腫瘍研究所	無
86	難研	タイ	チュラロンコーン大学 歯学部	無
87	難研	大韓民国	ソウル国立大学分子生 物学・遺伝学研究所	無
88	難研	フランス	リヨン高等師範学校	無
89	疾患生命	ドイツ	フンボルト大学	無
90	疾患生命	ドイツ	フライブルグ大学	有
91	疾患生命・難研	イギリス	ダンディー大学	無
92	疾患生命・難研	中華人民共和国	中国医科大学	有
93	疾患生命・難研	中華人民共和国	北京協和医学院	無
94	疾患生命・難研	ドイツ	ドイツリウマチ疾患研 究センター	無
95	疾患生命・難研	ドイツ	ハイデルベルグ大学生 命情報学部	無
96	疾患生命・難研	ベトナム	ハノイ医科大学	無
97	疾患生命・ 生命情報	中華人民共和国	上海センター	無

2. 教育活動

2-1. 日本語教育 順天堂留学生の参加を含む

2-1-1. 担当教員

専任教員

米本和弘（国際交流センター）、今村圭介（教養部）

非常勤教員

平形裕紀子、萩原明子、西川礼子、瀬尾悠希子、有馬貫志

2-1-2. 日本語研修コース

国費大使館推薦の研究留学生で文部科学省から本学を予備教育機関として指定された者（日本語研修生）、及び本学研究留学生を対象に、大学院での勉学と日本での社会生活を送る上で必要な基礎的日本語能力（日本語能力試験N4相当）とともに、日本文化、地理、防災などの教育を行ってきた。26年度から本学私費研究留学生及び順天堂大学研究留学生も受け入れ始めた。日本社会について理解を深め、親しむため、日本語学習に加え、課外授業として施設訪問（博物館、防災館など）、小学校訪問、施設見学旅行（一泊二日／箱根など）も行っている。

研究活動を行っていく上で必要となる基礎的医歯学用語や臨床現場に必要な簡単な医療会話の能力の習得も目指している。平成27年度前期は本学6人と順天堂大学1人（タイ）の合計7人を受け入れ、6人が修了した。平成27年度後期は本学学生のみ20人を受け入れ、18人が修了した。

①. 修了学生

前期（第27期）

6人（イエメン1人、カンボジア1人、タイ1人、中国2人、ラオス1人）

後期（第28期）

18人（インド2人、ガーナ3人、タイ6人、中国2人、ベトナム4人、ミャンマー1人）



平成27年度前期閉講式

平成27年10月6日



平成27年度後期閉講式

平成28年3月11日

②. 使用教科書

初級日本語 げんき I, II (The Japan Times)

③. 時間割と担当教員

平成27年度後期

	月	火	水	木	金
9:00	文法1 平形裕紀子	会話 米本和弘	読解漢字2 西川礼子	ドリル2 今村圭介	読解漢字2 米本和弘
10:40	ドリル1 平形裕紀子	読解漢字1 米本和弘	文法1 西川礼子	会話 瀬尾悠希子	テスト 米本和弘
13:10	聴解 萩原明子	演習 今村圭介	ドリル1 米本和弘	読解漢字1 瀬尾悠希子	

④. 課外授業

国立科学博物館

日本の科学分野における貢献、そして、それらの一般人に向けた展示の方法などを理解することを目的に国立科学博物館を訪問した。訪問後には、各自が興味を持った展示物について日本語で書き、冊子にまとめた。



防災館（池袋）

池袋の防災館を訪れ、日本で生活する際に必要な防災の知識について体験を通し学習した。具体的には、火災と地震について、消火や避難の方法について学習した。



施設見学旅行

施設見学旅行では、教室内や日常生活では学べない、日本の習慣や歴史、文化についても学ぶことを目的とし、前期は日光、後期は箱根を訪れた。単に楽しい活動ではなく、日本について深く知る貴重な機会であるとともに、留学生にとっての多様な気づきや学びの機会となっていることが窺われた。旅行後には各自が旅行中に経験したこと、学んだことを日本語でまとめた。



⑤. コース評価

コース終了後にはコース評価を行った。以下の学生のコメントに見られるように、全般的にコースに対する評価は高かったと言える。特に、教室で日本語を学ぶことだけではなく、教室外の活動を通して、日本の生活や文化に対して理解を深める機会を提供できた点が高く評価されていた。

- *The teachers always prepare their lessons carefully before the class. Also, they provide us a lot of useful information both in studying Japanese and daily life.*
- *I like the all situation was happened in this course. I am very happy that I have the kind senseis and good friends.*
- *This course provided me basic Japanese including speaking, listening, writing and also reading which I consider it is so useful for living in Japan.*
- *We have chance to study and practice Japanese a lot. Especially, the outdoor activities are extremely useful and interesting.*
- *The course did help me to improve my Japanese in daily conversation. The topics were suitable for daily use. Moreover, the extra-curriculum activities were very interesting and helpful, which board ended our knowledge about Japanese life and culture.*

来年への課題としては、授業進度が、特に後半にかけて、早いという声が多数聞かれたため、限られた時間内で最大限に学ぶための工夫を考える必要性がある。また、教室内の学習と教室外の活動の結びつきに関しても、さらなる検討が必要であると言える。

2-1-3. 日本語補講コース

本学の留学生が、医歯学系学生にとって必要な日本語を継続的に学習し、教育、研究又は臨床活動に積極的に参加できるようになることを目的として、夕方の時間帯に開講している。順天堂大学からも参加があった。

①. 日本語補講クラスレベル一覧

初級	JLPT N5	Basic Japanese 1 (BJ1)
	JLPT N4	Basic Japanese 2 (BJ2)
		Basic Review (BR)
中級	JLPT N3	Intermediate Japanese (IJ)
	JLPT N2	JLPT N2 (N2) Medical and Dental Japanese (MD)
上級	JLPT N1	

②時間割と担当教員

	教室	16:30-18:00	18:10-19:40
月	#1	BJ1：萩原	
	#2	BR：平形	IJ：平形
火	#1	N2：米本	MD：米本
	#2	B1：今村	B2：今村
木	#1		IJ：有馬
	#2	B1：有馬	B2：米本

2-1-4. 留学生による「Travelling around the World in 30 minutes」

外国人留学生と日本人との国際理解推進のため、毎月1回、昼休みに留学生による出身地の紹介を行った。留学生の日本語学習の成果を披露する機会でもあり、留学生は日本語で母国についてプレゼンテーションを行った。



	月日	国	発表者
1	平成27年4月24日	カナダ	エドワード チョウ
2	平成27年5月22日	タイ	チュータマス ディーボ タッタウェ ケムウオン
3	平成27年6月26日	ミャンマー	カウン ミヤット トウイン ワ タン リン
4	平成27年9月25日	ベトナム	レ ホアン ソン、 グエン ティ タン タム
5	平成27年10月23日	中国	リ ナ ソウ ヒタン リ テンキョウ
6	平成27年11月27日	ラオス	スリデット ビライボン ティッサマイ ルアウンサイ
7	平成28年1月29日	エクアドル	アンドレス エスティバン モラ
8	平成28年2月19日	ガーナ	エマニュエル アウサー ブレイ ジェリー クワメ インジヌ
9	平成28年3月4日	ヨルダン	マンハル M. A. イジバラ

2-1-5. 日本人学生による「Travelling around Japan in 30 minutes」

留学生のプレゼンテーションに加え、国際理解をさらに促進させるため、不定期で、日本人学生による出身地についてのプレゼンテーションを英語で行った。



	月日	出身地	発表者
1	平成27年5月29日	東京	須賀隆行
2	平成27年6月19日	大阪	小滝真也
3	平成27年11月20日	北海道	杉澤啓吾
4	平成27年12月4日	福岡	渡部昌大
5	平成28年1月15日	東京	山本真央

2-1-6. 日本文化理解活動

留学生の日本に対するよりよい理解を育むために、日本の年中行事のイベントを行った。イベントには日本人学生の参加も促し、留学生との交流の場を創出することも目的としている。

	月日	内容	場所
1	平成27年5月1日	端午の節句	統合国際機構ラウンジ
2	平成27年7月7日	七夕	神田明神
3	平成27年9月25日	お月見	統合国際機構ラウンジ
4	平成28年1月8日	鏡開き	統合国際機構ラウンジ



イベントに加え、より日頃から日本文化に慣れ親しむことを目的に書道クラブを月に1回程度行った。実施においては、本学歯学部附属病院の歯科衛生士竹廻祐希氏に協力を依頼し、指導をお願いした。



また、日本の社会と文化に関する講演会を不定期で開催し、様々なトピックに関して、英語で講義を受けるとともに、ディスカッションや体験などを行った。

	月日	講師	タイトル
1	平成27年5月12日	Prof. Janelle Moross	困った! (Komatta)
2	平成27年5月26日	Miyama McQueen-Tokita (箏奏者)	Introducing the Japanese KOTO
3	平成27年6月30日	Prof. David Cannell	Haiku: Then and Now
4	平成27年7月14日	Prof. Takashi Zaitzu	The Japanese technologies for space development and the interests of space environment
5	平成27年11月10日	Prof. Rebecca Carlson	How do you know what an Otaku is?



The koto lecture was amazing. Ms. McQueen-Tokita was so informative, well-organized and totally friendly. She gave us a clear idea about Japanese music, different instruments used, developmental changes on the tunes. The practical part was also fun. The technique, although seemingly easy in principle, is difficult in practice. Thank you all for organizing this event.

Manhal Ijbara (Pediatric Dentistry / Jordan)

2－1－7．順天堂大学との交流

本学湯島キャンパスに隣接し、本学と同様、医学部を中心とする大学である順天堂大学とは、日本語コースの相互履修などを中心に協力、交流を図っている。これらに加え、年に4回、相互の大学を行き来し、様々なイベントを通し、留学生だけではなく、日本人学生とも交流を行っている。

	月日	内容	場所
1	平成27年4月4日	お花見	上野公園・湯島天神
2	平成27年6月12日・13日	合同研修	本学館山大賀寮
3	平成27年11月18日	留学生交流会	順天堂大学
4	平成28年2月3日	節分	本学M&Dタワーホワイエ 神田明神



日本では、二月三日には節分という祭りがあります。

その日、私たちはM&Dタワーに集まりました。順天堂大学の学生も来ました。まず、節分と豆まきと恵方巻きを説明してくれました。次に、皆さんは先生恵方巻きの作り方を習ってから、自分で恵方巻きを作りました。今年の恵方は南南東だから、M&Dタワーから御茶ノ水駅を見て、目を閉めて、恵方巻きを食べました。

私の恵方巻ききがバラバラなので、友達に笑われました。「あまりきれいじゃないけど、味は同じだ」と思っていました。それで、全部食べました。

そして、神田明神に豆まきを見に行きました。天気が良くてよかったです。人が多かったです。三時半ごろ特別な服を着ている人は神社の中に歩いて来ました。彼らは有名人だそうです。それから、左殿の二階から、豆を投げながら、「鬼は外、福は内」と大きい声で言いました。豆だけでなく、お菓子やみかんやプレゼントもあります。私たちはそんな物をがんばって取りました。皆さんはうれしそうでした。私は豆とみかんをもらいました。友達はたくさんプレゼントがありました。

神社はとても込んでいたし、私たちは早く来たし、長い時間待たなきゃいけなかったです、でも本当にすごく楽しかった。

これが初めての節分祭りでした。とても面白い経験でした。

グエン ヤー キエウ ガン（顎関節口腔機能学／ベトナム）

2-1-8. オリエンテーション

新規に渡日する留学生に対してオリエンテーションを開催した。従来、学生支援機構が行っていたオリエンテーションに加え、渡日すぐ必要な情報や手続きに関して説明すること目的に、渡日直後にもオリエンテーションを実施した。

さらに、留学生のチューターとなる日本人学生に対してもオリエンテーションを実施した。仕事の役割を説明すると同時に、留学生が日本で学ぶ上で必要な手続き等についても説明をした。また、ゲストスピーカーとして、前年に来日した留学生を招き、留学生が直面しやすい問題などについても話してもらい、チューターという職務についての理解を促した。



2-2. 補助金等事業

2-2-1. スーパーグローバル大学創成支援事業

本学は、「知と癒しの匠を創造し、国内・国外へと展開し、人々の健康と社会の福祉に貢献する」ミッションを掲げ、医療系機関としてグローバル人材育成及びグローバル研究・協力活動を推進してきた取組みが評価され、平成26年度文部科学省補助金「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択された。

この事業は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的とし、タイプA（トップ型）は、世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援するものである。

本学の事業構想は、「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦」とし、日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上に向けて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界と共に発展的存続を実現するために中心となって活躍するグローバルヘルス推進人材の育成を行う取組みである。

この取組みとして、①ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革を行い、②入学者募集方法から、入試、学士（教養）、学士（専門）、修士/博士課程までを通した全体的な教育改革を行い、③本学海外教育研究協力拠点の拡充/拡大及びそれらを活用した積極的な教育研究を展開する。

そして、これら取組みを通して、①アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立し、②世界規模の健康課題克服のため、集学的研究による、予防・診断・治療における革新的ソリューションを提供し、③様々な国・地域における課題克服のため、国内外機関と協働し、研究/教育/医療の全チャンネルを開いて貢献する、3つのゴールへの到着を目指すとともに、本学における他の様々な取組み・活動を推進し本学の国際通用性・認知度・国際競争力の向上を図るものである。

①. 事業の取組み

(1) ガバナンス体制強化

(ア) 事務職員の資質の高度化（2-2-2④(3)(ア)にも記載あり）

英語研修（英会話研修） 平成27年12月～平成28年2月 15名

語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し国際化対応力を高め、32人（平成27年度末時点）が外国語力基準を満たした。

(イ) 統合教育機構の設置

①教育に関する、大学理念実現のためのガバナンス強化、②教育に関する人的資源の有効利用（集中/共有）③カリキュラムの質管理の強化/継続的改善により、入学者選抜から教養部・学部・大学院・生涯教育まで一貫した教育方針等の策定を支援し、国際水準を超える教育を展開することを目的とし、平成28年3月統合教育機構を設置した。

（ウ）統合国際機構の設置

本学基本理念の実現のためのグローバル化に関する学内体制の強化及びその推進を目的として、海外拠点の形成、強化及び支援、学内の英語化推進等を実施するため、平成28年3月統合国際機構を設置した。

（エ）IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供する教学IR部門を統合教育機構内に配備する予定である。

（オ）大学ブランディングの取組み・情報発信

本学の国際的地位向上及び知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者等に、グリーティングカードと共に英語版広報誌を送付した。海外向け研究情報冊子TMDU Research Activitiesを企画して発行した。また、TMDU Research ActivitiesのデータをNature Publishing Groupによるターゲティングメールで海外の研究者向けに配信した。米国科学振興協会（AAAS）が提供しているオンラインニュースサービスのEurekAlertを、新規に利用してプレスリリースを掲載することで世界の報道関係者に情報を発信した。世界的な大学ランキング機関（英国の高等教育機関情報誌タイムズ・ハイアー・エデュケーション（Times Higher Education）及びクアクアレリ・シモンズ（Quacquarelli Symonds））に本学の教育研究などに係わる情報を提供した。この情報と独自の調査によりTHEから発表されたTHE World's Best Small Universities（世界最高の小規模大学を選出するランキング）において、学生数に対する教員数の割合の高さや、論文の被引用回数の多さなどの教育・研究の質を示す指標で高く評価され、本学は日本で第1位、世界で第12位の大学に選出された。

（カ）外国人OBの情報のSNS/留学生管理サービス

本学の帰国外国人留学生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB同窓会組織設立/拡充を進めるための第1ステップとして、帰国留学生とのネットワークを構築し、留学生情報を一元的に管理するため、SNS/留学生管理サービスを平成26年度に導入し、平成27年度末現在で1,507件の登録がある。

(2) 教育改革

(ア) アクティブラーニング推進準備

学生の実質的学びの時間を確保するべく平成26年度に組織された反転授業推進WGにおいて、アクティブラーニングの推進と、そのための反転授業を中心とした様々な方略の検討と導入準備を進めた。特に反転授業に関して具体的には、反転授業のコンサルタントより指導を受け、WGメンバーが予習動画の作成方法を習得した。反転授業の実践及び実践した授業の報告・ディスカッション等を実施した。現在、アクティブラーニング推進を全学的に行うためのFDの開催について検討中である。

平成27年度WG開催状況

第1回 平成27年4月16日 第2回 平成27年6月26日

第3回 平成27年10月16日 第4回 平成28年1月29日

(イ) 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進に関する検討

学士課程では、教養部において全ての授業科目で授業評価を実施し、教員、学生に結果を公表している。医学科では、31科目において授業評価を実施し、担当教員に結果を公表している。保健衛生学科では、1年次から4年次の専門必修科目（講義、演習）を対象に、各科目の最終講義終了後に学生による授業評価を実施している。また、歯学部においても、学生による授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を担当教員へフィードバックし講義・カリキュラムの改善に活用するとともに、各分野責任者へも開示し、問題点の共有を図っている。

(ウ) 多面的入学者選抜方法等の検討

学士課程では平成30年度より特別選抜（推薦入試・国際バカロレア入試・帰国生入試）枠を設置し、英語力評価方法としてTOEFLやIELTSなどの外部試験を活用することを決定した。修士/博士課程では平成28年度より一般選抜において英語力評価方法としてTOEFLを導入することを決定した。

(エ) 少人数リーダー養成英語選抜プログラム（HSLP）

少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP（Health Sciences Leadership Program）の拡充及び取組規模拡大（25人/学年）が行われた。また、平成28年度より設置予定のHSLP Associate Membershipについて検討を開始した。なお、平成28年度より大学院版HSLP（修士/博士課程学生対象）を開講予定である。

(オ) 大学院留学生の増加

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などを進めたことにより、外国人留学生数は、平成26年度（平成26年5月1日現在）222人から平成27年度（平成27年5月1日現在）248人へと増加した。

(カ) グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）準備

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員を獲得した（国際健康推進医学分野長1名、国際保健医療事業開発学分野長1名）。彼らを中心に、開講（平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講予定）にむけた体制準備とカリキュラム策定が行われている。

(キ) 教員対象英語研修

教員の英語力を向上させ、教育の質及び研究の生産性の向上を図るべく、民間英語教育機関と提携し、教員を対象とした英語研修を実施した。英語での授業及びプレゼンテーションをテーマとして学内でのグループレッスン及び学外での個人レッスンを実施し、グループレッスンは47名、個人レッスンはそのうち30名の教員が受講した。なお、研修成果の還元のため、受講者に義務を課し、平成28年度末に英語で実施したセミナー等の実施状況を報告させる予定である。

(3) 国際化の展開

(ア) 全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習等を行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数に向け、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置等を進めたことにより、外国人留学生数において、平成27年5月1日現在で248人及び平成27年度（通年）で430人の実績であった。

(イ) 留学の動機付け

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベント等で動機付けを行い、留学機会拡大を図っている。グローバルに活躍する本学卒業生らを招いて、ロールモデル発見・キャリア形成支援・コミュニティ形成・ネットワーク形成支援を目的とした情報交換・交流機会として、キャリア形成支援交流イベント（“Find-Your-Role-Model” sessions）を8回行い、合計122名が参加し、良きロールモデルを得るとともに在学生間でのネットワーキングも行われ、志を同じくする者達によるコミュニティの形成が図られた。

平成27年度の単位取得を伴う海外留学経験者は、学部生220人、大学院生20人と増数が見られた。

➤英語模擬交渉ワークショップ（GCW）（2－2－2①(1)(イ)iiにも記載あり）

1回 平成27年5月16日	2回 平成27年5月23日
3回 平成27年6月6日	4回 平成27年6月13日

➤ハーバード研究報告会 平成27年9月14日

➤インペリアル大学との交流会 平成27年4月25日

➤Find-Your-Role-Model sessions（FYRM）

（2－2－2③(1)(ア)にも記載あり）

第17回 平成27年5月7日	第18回 平成27年6月30日
第19回 平成27年7月21日	第20回 平成27年10月7日
第21回 平成27年11月11日	第22回 平成27年12月4日
第23回 平成28年2月3日	第24回 平成28年2月29日

（ウ）外国語による授業科目の増加への取組み

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心に二カ国語履修化を進めるべく、教養部では平成26年度より人文社会科学科目に英語で授業を行う科目を設定しており、平成27年度は3科目を開講した。また修士/博士課程では既存コースワークの英語履修化を進める。

平成27年度における外国語による授業科目数は、学部は15科目、大学院は279科目であった。

（エ）TOEFL集中講座・TOEFL試験の実施

➤TOEFL集中講座（2－2－2③(2)(イ)にも記載あり）

夏コース 平成27年8月3日～7日、8月10日～14日、
平成27年8月17日～21日、8月24日～28日

春コース 平成28年2月22日～26日、平成28年2月29日～3月4日
平成28年3月7日～11日

学生の語学レベルの測定・把握、向上のため、学部学生及び大学院生を対象に、TOEFL集中特訓コースを本学にて提供した。夏コース学生125名（学部学生87名・大学院生38名）、春コース学生59名（学部学生32名・大学院生27名）の参加があり、いずれも受講後にTOEFL受験を必須とし、

本学外国語力基準達成者数が403名（学部学生353名、大学院生50名）となり順調に増加した。

（オ）留学派遣支援

授業料相互不徴収による学部及び大学間学生交流協定の締結校増数を図り、新規に8機関と締結した。

➤国際交流協定数： 90大学

また、学部学生海外研修奨励賞、大学院学生研究奨励賞、学部学生海外拠点派遣助成制度等の大学基金を用いた奨学金制度により、以下の人数に奨学金を授与した。さらに日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）では、以下の人数に奨学金を支給した。

➤奨学金制度：学部学生海外研修奨励賞（合計14名）

大学院学生研究奨励賞（合計8名）

日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）（合計76名）

（カ）Global Health Learning Opportunities（GHLO）正式加盟

学士課程受入留学生の増数に向け、平成27年6月に海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities（GHLO）に正式加盟した。加盟により、今後多くの加盟校への学生派遣者数の増加及び加盟校からの優秀な留学生の受入者数増加が期待できる。

（キ）ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）

海外拠点にて連携している現地教育機関（チリ大学及びチュラロンコン大学）と平成28年度にジョイント・ディグリー・プログラムを開講するため、平成27年3月に設置申請を行い、審査の結果、平成27年6月に我が国で初めてジョイント・ディグリー・プログラムを運営するための2つの国際連携専攻の設置が認められた。なお、チリ大学とのジョイント・ディグリー・プログラムは平成28年4月より開始され、チュラロンコン大学については平成28年8月より開始の予定である。

2-2-2. 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業

「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」という理念の実現のために、本学がこれまで行ってきた国際化の推進、国際交流の推進に向けての取り組みが評価され、平成24年度文部科学省補助金「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」タイプB特色型（旧「グローバル人材育成推進事業」タイプB特色型）に採択された。「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」とは、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や、国と国との絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、大学教育のグローバル化のための体制整備を推進することを目的としたもので、平成24年度から平成28年度にわたる補助金事業である。全国で152件の応募があり、本学を含めた42校が採択された。なお、医療系大学として採択されたのは本学のみであり、医療系学部学科を含めた取り組みとしての採択も5校のみと限られ、医療系教育機関におけるグローバル人材育成の拠点大学となっていくことが期待されている。

本学の取り組みは、グローバル化が進む中で、①医療の国際標準化及び国際協調の観点から必要度の増す医療人の英語（必要最低限の一般英語及び専門分野の英語）運用力の底上げを図ること（ボトムアップ教育）、②成熟した国家である日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・国際協力/医療観光等医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担うグローバルリーダーを育成すること（リーダー育成教育）、を目的としており、そのために以下に挙げる取り組みを行っている。また、これら取り組みを支える基盤強化のための取り組みも行っている。

内的動機付けのための取り組み：

(1) 入学前

➤オープンキャンパスでの本学グローバル教育紹介

(2) 入学直後

➤入学直後の合宿研修での本学グローバル教育紹介

➤Global Communication Workshop (GCW)

➤海外留学生選考におけるTOEFL 基準を設置

目的①の達成のための取り組み：

(1) 語学力アップ及びスキルアップ

➤専門教育期間における必修語学（英語）科目の運用力の強化

➤外部英語試験（TOEFL）の実施

(2) 専門領域英語運用力強化

➤専門課程全科目最終試験問題の一部英語化

目的②の達成のための取組み：

- (1) キャリア形成支援
 - Find-Your-Role-Model sessions
 - ディスカッション・カフェ
- (2) スキルアップ
 - 選択科目の提供
 - TOEFL 集中特訓コース
 - 英語プライベートレッスン
 - 批判的思考特訓 (Critical thinking bootcamp)
 - デザイン思考特訓 (Design thinking bootcamp)
- (3) 海外留学
 - 留学機会の創出・拡大
 - 留学への動機付け
 - 留学前準備教育の充実
 - ✓Academic Skill for Successful Exchange Research sTudents Course (ASSERT)
 - ✓Fit for Overseas Clerkship oportunities Course (FOCUS)
 - ✓Be Ready for International Dental Externships Course (BRIDgE)
- (4) リーダー養成英語選抜プログラム
 - Health Sciences Leadership Program (HSLP)

本取組みの推進のために、学部/学科を超えた組織としてグローバル人材育成推進事業推進委員会を設置し、教育担当理事の陪席のもと、企画立案、環境整備、部門間調整等の具体的業務を行った。そして取組みの実動部隊としてグローバルキャリア支援室を組織し、平成24年12月より活動を開始している。

①内的動機付けのための取組み

- (1) 入学前
 - (ア) オープンキャンパスでの本学グローバル教育紹介
期間：平成27年7月30日～31日

オープンキャンパスにおいて、グローバルな視野・グローバルなキャリア志向の強い入学生獲得に向けて、海外留学プログラムや、本学の様々なグローバル人材育成取組みを紹介した。

- (イ) 入学直後
 - i. 新入生合宿研修での本学グローバル教育紹介
期間：平成27年4月9日～10日

入学直後の新入生合宿研修において、海外留学プログラムや、本学の様々なグローバル人材育成取組みを紹介し、グローバルなキャリアに向けた内的動機付けを行った。

ii. Global Communication Workshop (GCW) (2 - 2 - 1 ①(3) (イ)にも記載あり)

日時: 平成27年5月16日、23日、6月6日、13日

入学後間もない第1学年の全学生を対象とし、国際保健問題に関しての英語模擬交渉ワークショップ (Global Communication Workshop) を開催した。これは、①語学力・論理的思考力の重要性を理解する、②その後本学において提供される様々な学習機会を十分に活用して、語学力及び論理的思考力の向上に向けて主体的・自発的に取り組むよう内的動機付けを図る、③健康/医療に関するグローバルな問題の重要性を認識し、当該領域に関する理解を深める機会を提供する、を目的としたもので、本学の外国人大学院留学生の協力を得て混成小グループで行うことにより人種/文化的多様環境を創出している。参加は任意だが、参加を本学の提供する海外留学プログラムやHSLPへの応募における必須要件としたこともあり、全学科1年生合計278名のうち130名 (46.8%) が参加した。事後調査では、参加した学生の満足度がとても高く、また参加者における語学力/批判的思考力などグローバル人材に必要なスキルの必要性の認識が高まったことが示された。



iii. 海外留学者選考におけるTOEFL基準を設置

リーダー育成におけるコンピテンシーの獲得のために最も効果的な方法は、意欲の高い学生に対し、意欲の高い時期に、効果的な学習をさせることであるとの論理に基づき、リーダー育成コンピテンシーにおける英語運用力に関する目標到達支援のための動機付けとして、海外留学プログラム派遣者選考に際してのTOEFL基準を設定し、運用している。

②ボトムアップ教育のための取組（目的1）

（1）語学力アップ及びスキルアップ

（ア）専門教育期間における必修語学（英語）科目の運用力の強化

教養教育期間に加え、以下に挙げる専門教育期間の必修語学科目においては、本事業担当教員がその企画・運営に参画し、英語の語学力アップだけでなく、医療/健康領域や、関連専門領域の語彙及びトピックへの理解を深めるとともに、コミュニケーションスキル・思考力・グローバルな視野の獲得などスキルアップも到達目標に含めた教育を行った。特に、医学科、歯学科専門課程における英語教育科目「グローバル・コミュニケーション」においては、①英語医学情報読解能力、情報発信及び議論力、②批判的思考力、③英語による世界の医療/健康事情の把握と広い視野の獲得を到達目標に設定しており、英語を母語とする教員の配置（学生10人あたり教員1名）に加え、外国人留学生、チューターも動員し、グループ議論/ディベートを主とした学習形態を提供した。

➤Global Communication for healthcare professionals（医学科及び歯学科第2～4学年）

➤英文講読I・II（保健衛生学科看護学専攻第2・3学年）

➤Global Communication（I）（保健衛生学科検査技術学専攻第2学年）

➤医学英語演習II（保健衛生学科検査学専攻第3学年）

➤科学英語I（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻第2学年）

➤科学英語I・II（口腔保健学科口腔保健工学専攻第2・3学年）

➤口腔保健工学概論B（口腔保健学科口腔保健工学専攻第2学年）

（イ）外部英語試験（TOEFL）の実施

入学直後に新入生全員に対してプレースメントテストとして、TOEFL-ITPを実施し、正規/課外の様々な語学教育・グローバル教育機会において習熟度別語学クラス編成を行い、効果的な学習環境を用意した。また高学年においてもTOEFL-ITPを実施し（保健衛生学科第2/3学年、歯学科第2/3/4/5学年、口腔保健学科第2/3学年に実施）、語学力の推移の定点観測を行うとともに、語学学習方法の改善点の同定につとめた。

（2）専門領域英語運用力強化

（ア）専門課程全科目最終試験問題の一部英語化

医療専門職業人として災害や流行病の際に他国の同業者と必要最低限の情報交換を世界共通言語（英語）で行える必要があるとの認識から、それぞれの専門領域の用語について日本語のみでな

く英語表記及び発音ができることを卒業時コンピテンシーとした。そして、専門教育期間の外国語必修科目においてそれら用語の学習を行うとともに、全学科・専攻における専門科目においても両言語にて教え、更に専門科目最終試験の一部を英語化することにより、学生の外的動機付けを行うこととし、一斉導入している。平成27年度は62.1%の専門科目について最終試験の一部英語化を実施した。

③グローバルリーダー育成の取組み（目的2）

(1) キャリア形成支援

(ア) Find-Your-Role-Model sessions（2－2－1①(3)(イ)にも記載あり）

グローバルに活躍する本学卒業生らを招いて、ロールモデル発見・キャリア形成支援・コミュニティ形成・ネットワーク形成支援を目的とした情報交換・交流機会として、キャリア形成支援交流イベント（“Find-Your-Role-Model” sessions）を以下のように8回行い、合計122名が参加し、良きロールモデルを得るとともに在学生間でのネットワーキングも行われ、志を同じくする者達によるコミュニティの形成が図られた。

第17回 平成27年5月7日

Harbor-UCLA Medical Center 腎臓内科フェロー
宮田（野城）加菜 氏

第18回 平成27年6月30日

歯科医学教育国際支援機構理事長
宮田 隆 氏

第19回 平成27年7月21日

NPO法人 ジャパンハート事業推進・
グローバル人材育成担当
武内 三恵 氏

第20回 平成27年10月7日

本学非常勤講師
Osei-Hyiaman Douglas 氏

第21回 平成27年11月11日

Professor, Leukocyte and Stem Cell Biology
Imperial College London
Sara Rankin 氏

第22回 平成27年12月4日

Postdoctoral Fellow, Department of Neurobiology
Harvard Medical School

吉良 信一郎 氏

第23回 平成28年2月3日

Chief Resident of Internal Medicine,
Brigham and Women's Hospital
Matthew Weinstock 氏

第24回 平成28年2月29日

Resident, Department of Medicine Mount Sinai
Beth Israel/Mount Sinai Icahn School of Medicine
颯田 稔久 氏



(イ) ディスカッション・カフェ

早稲田大学×TMDU

(第4回) 日時：平成27年6月27日

場所：早稲田大学

テーマ：多文化共生社会・日本の未来像

(第5回) 日時：平成28年1月30日

場所：東京医科歯科大学

テーマ：How will genetic testing change society

インペリアルカレッジ×TMDU

日時：平成27年4月25日

場所：東京医科歯科大学

テーマ：人口爆発・臓器移植

平成25年7月に、グローバル人材育成を中心とした包括協定を早稲田大学と締結した。これに基づく活動として、外国人留学生と日本人学生の課外交流機会（ディスカッション・カフェ）を早稲田大学と共同で創出した。教職員による管理/支援のもと、学生タスクフォースを組織し、彼らが企画/運営を主体的に行う形をとった。キャンパスにおける文化的多様環境の創出と、国際保健問題の複雑さや、批判的思考力/対人スキル/語学力の必要性の認識を目的とした。本学と早稲田大学とのディス

カッション・カフェでは、第4回は25名、第5回は29名が参加した。

また、本学と協定校であるインペリアル・カレッジ・ロンドンとも同様の趣旨・形式による交流機会「ディスカッション・カフェ」を企画・実施し、同大学からの留学生4名と本学学生26名が参加した。

両プログラムとも参加者の満足度がとても高かった。



(2) スキルアップ

(ア) 選択科目の提供

専門教育期間においては、必修語学（英語）科目に加えて選択科目として、英語の語学力・コミュニケーションスキル、思考力などの獲得を到達目標に含めた科目を提供した。

- 英文講読III（保健衛生学科看護学専攻第4学年）
- 実践看護英語（保健衛生学科看護学専攻第2・3学年）
- English for Health Care Sciences（I） / （II）（保健衛生学科検査技術学専攻第2・3・4学年）
- Global Communication（III）（保健衛生学科検査技術学専攻第4学年）
- 科学英語II（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻第2学年）

(イ) TOEFL集中特訓コース（2－2－1①(3)(エ)にも記載あり）

期間：（夏コース）平成27年8月3日～7日

平成27年8月10日～14日

平成27年8月17日～21日

平成27年8月24日～28日



（春コース）平成28年2月22日～26日

平成28年2月29日～3月4日

平成28年3月7日～11日

学部学生及び大学院生の英語運用力向上及びTOEFLスコアアップのため、TOEFL集中特訓コースを本学にて提供した。夏コース学生125名（学部学生87名・大学院生38名）、春コース学生59名（学部学生32名・大学院生27名）の参加があり、いずれも受講後にTOEFL受験を必須とし、プログラム評価を行った。

(ウ) 英語プライベートレッスン

期間：平成27年12月1日～平成28年1月29日

平成26及び27年度HSLP履修生の英語コミュニケーションスキルアップ及び論理的思考力向上のため、個別特訓機会を提供し、学生9名が参加した。

(エ) 批判的思考特訓（Critical thinking bootcamp）

期間：（秋コース）平成27年10月17日～18日

（春コース）平成28年3月25日～26日

秋コースは、HSLP選抜者の16名、春コースは、来年度海外留学派遣予定者及びHSLP選抜者の22名を対象として、クリティカルシンキングに精通するための能力を養成するプログラムをすべて英語で行った。

(オ) デザイン思考特訓（Design thinking bootcamp）

期間：（冬コース）平成28年2月22日～23日

HSLP履修生及び本学学生22名に対して、使用言語を英語のみとして、イノベーション手法として世界的に注目されているデザイン思考のエッセンスとともにイノベーションの創出に向けて協働して取り組むにおいて不可欠なリーダーシップ・スキルを、演習やミニプロジェクトなどを通じて実践的に学べるワークショップを開催した。

(3) 海外留学

(ア) 留学機会の創出・拡大

医療系の学士課程カリキュラムは、そのほとんどが必須科目で埋められており、長期間の海外留学は休学しない限り極めて難しいが、本学では、医療系学士課程カリキュラムにおいても現実可能な海外留学形態を模索し、そしてよりきめ細やかな指導を受けられ、将来のキャ

リア構築にとって効果の大きい形として、研究実習及び臨床実習という留学形態を考案し、各学科/専攻においてそれを可能にするカリキュラム改革を行ってきた。具体的には、医学部医学科及び歯学部歯学科ではいずれも4学年において研究実習科目を設置し、同科目の学修活動として、海外の研究機関にての単位認定を伴う研究実習留学を可能とした。また医学部医学科の臨床実習では、必修及び選択プログラムを4週間単位でローテートするが、その内の一部を海外で履修（臨床実習留学）可能とした。

そして、研究実習留学の留学先は、本学海外教育研究拠点や海外提携校及び非提携校（学生が直接交渉）、また臨床実習留学の留学先は、海外提携校及び非提携校（学生が直接応募）である。留学機会の拡大のために海外提携校の増数に努めており、平成27年5月現在で90大学と国際交流協定を締結している。平成27年度卒業生では医学科で28%、歯学科で44%、全体で30%が海外留学経験を持つ。また、医学科では更なる臨床実習留学の留学先確保のために、米国医科大学協会が設立する海外学修機会提供ネットワーク（Global Health Learning Opportunities, GHLO）へ加盟した。

（イ）留学への動機付け

各学科/専攻において、研究実習留学、臨床実習留学などを終え帰国した学生による留学報告会を定期的で開催した。ここでは、長期的キャリア構築の視点からの留学の意義について意見交換や、また、本学における教育カリキュラムに対する提言に基づく意見交換も行われた。

また、医学部医学科では、第1学年専門必修科目「医学導入」の2限を用い、研究実習留学、臨床実習留学の全プログラムに参加した上級生に経験と得たものを語ってもらい、その後上級生も参加した混成小グループにて卒前海外留学の意義を議論する機会を設けた。

（ウ）留学前準備教育の充実

➤「ASSERT（Academic Skills for Successful Exchange Research sTudents） Course」

期間：（ワークショップ）平成27年3月27～28日

（セッション） 平成27年4月7日、14日、21日、28日、
5月12日、19日、26日

4週間以上の研究実習留学参加予定学生を対象とした派遣前準備教育ASSERTコースを実施した。他国の医療専門職教育期間の上級学年生に匹敵するアカデミックスキルの獲得を支援することを目的としたもので、批判的思考力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション

力、積極的に議論する姿勢、そしてグローバルな視野の獲得・洗練を到達目標として掲げ、完全英語履修で、毎週1日夕方の90分の学習を合計7回行い24名が受講した。

➤「FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunityS) Course」

期間：平成27年9月7日～平成28年3月21日

医学部医学科生臨床実習留学参加予定学生を対象とした派遣前準備教育FOCUSコースを実施した。英語圏先進国医学校最終学年学生に期待される臨床スキル、患者管理スキル、コミュニケーションスキルを獲得することを目的としたもので、英語での病床聴取、身体診察、口頭及び文書プレゼンテーション、そして高い臨床推論能力の獲得・洗練を到達目標として掲げ、派遣前7ヶ月に渡り、毎週1日夕方120分を用い英語での臨床技能特訓を行った。米国医師免許/内科専門医資格を持つ教員と、米国人で米国看護師資格を持つ教員、そして本学卒業生で在学時ハーバード医学校での臨床実習留学参加経験のある教員が指導にあたった。医学部医学科5年生が15名受講した。

(4) リーダー養成のための選抜プログラム (HSLP)

生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担うグローバルリーダーを育成する本学構想の目的の確実な達成のための旗艦的取組みとして、本学学士課程に入学する学生で、グローバルな視野を持ち、グローバルな医療系キャリアに向けての志の特に強い学生を対象とした、複数年に渡るリーダー養成選抜プログラムHealth Sciences Leadership Program (HSLP) を平成25年10月より開講した。

このプログラムは、育成する人材に必要な資質である基礎/社会/臨床医歯学知識、関連する社会科学系知識（政治/経済/哲学/社会学など）とその対応力、批判的思考力、探究/分析力、口頭/文書コミュニケーション能力、創造的思考力、リーダーシップ・スキルなどの獲得を支援するものであり、履修生は第1～3年次まで週1日夕方の全体学習と、様々なワークショップやプロジェクトを通してコンピテンシー習得につとめ、本コースに海外留学を必須として視野を広げスキルを更に磨くとともに、第4年次以降はチューターとして後輩の指導にあたる。教員による密なメンタリングや個人レベルでの語学学習支援なども提供する。グローバルに活躍する卒業生などとのネットワーク形成機会も豊富に用意し、志を同じくする在校生/卒業生によるコミュニティの形成を図る。英語のみにて学習する。



平成27年春に第2期生に加え、本学医学部、歯学部第2学年在籍予定の学生及び医学科学士課程編入生を対象とした追加募集を行い、8名の応募があり6名を選抜した。また、平成27年秋には第3期生の募集・専攻を行い、21名の応募があり、16名を選抜した。

平成27年12月には全履修生及びグローバルキャリア支援室教員を一同に介しての第3回リトリートを開催し、学生間及び学生・教員間で親睦を深め、HSLPで学ぶ学生の将来ビジョンやそれに向けた取組み、活躍の様子などを共有し、相互刺激/支援の精神の醸成を図った。

平成28年2月に第3期生に加え、本学医学部、歯学部第2学年在籍予定の学生及び医学科学士課程編入生を対象とした追加募集を行い、10名の応募があり7名を選抜した。

④事業を支える基盤強化のための取組み

(1) 教員研修

(ア) 平成27年度医学部医学科及び大学院医歯学総合研究科（医系）

合同新規採用教員研修会

期間：平成27年7月7日

「効果的な授業とは？」をテーマに、アクティブラーニング等の学習方法や学習理論について、医学系の新規採用教員を対象に研修を行った。

(イ) 外国人教員の招へい

グローバル教育力向上及び教育体制の国際通用性向上を目的とし、ハーバード大学関連病院であるブリガムアンドウィメンズ病院内科研修プログラムと提携し、本学・本院では学習機会が限られている「主

要な症候に対するプライマリーアプローチ」を主とした総合内科学習や臨床感染症学習機会の提供、本学における医学教育やグローバル教育に関する第三者評価・助言等、さらに教員研修講師担当等を目的として、平成27年度は教員を1名招へいた。

・ブリガムアンドウィメンズ病院内科研修プログラムチーフレジデント

Matthew Weinstock氏

期間：平成28年2月1日～5日

血液腫瘍内科専門医及び内科研修プログラムチーフレジデントの視点から医学科臨床導入実習における医療面接・身体診察能力養成プログラム開発についてのコンサルティング、臨床実習派遣予定学生への準備教育プログラムに対応した実践的な講義、医学科及び医歯学融合教育における医学英語教育カリキュラムへの協力及び評価・助言を行った。



(ウ) PHIリーダーシップコース教員研修

期間：平成27年9月18日～平成27年9月25日

今回のリーダーシップコースは、新体制における教育部門のリーダーである役員および部局長を派遣し、カリキュラム改革の過渡期にあるハーバード医学校/歯学校から、改革の内容およびその根拠とともに、ハーバード大学というアカデミアのトップ機関において限られた時間内に実現するためのリーダーシップおよびマネジメントなどを学び、本学の目的達成・理念実現に貢献するものとした。

(エ) 学部学生への医学英語教育評価

学部学生への医学英語教育に関し、クリティカルシンキングを向上させる授業における担当教員の授業スキル向上の必要があるため、授業を担当する教員に対しての、個別評価と、フィードバックを外部教育機関に委託した。

(2) 留学支援

(ア) 留学に関するワンストップ・サービス

留学に関する情報や奨学金に関する一元的な情報提供/支援のほか、留学募集から決定、留学手続き、連絡先/連絡方法の一元管理、留学中から帰国後の手続きまでの学生の海外留学に関する支援業務を一括して管理/支援する「留学生支援課 学生海外派遣掛」を平成26年度に設置し、留学に関する「ワンストップ・サービス」を実現している。

(イ) 海外派遣危機管理

➤学生への留学中の支援

留学前教育を担当したグローバルキャリア支援室教員を中心に本学教員がメンターとして学修面及び身体/精神面に配慮したサポートを行った。また、滞在先の本学関係者がメンターとして支援を行った。

➤海外派遣危機管理

本学学生の留学中の緊急時・災害時対応を含むリスク管理のため、学内での危機管理体制構築/マニュアルを作成し、また日本エマージェンシーアシスタンス（株）の提供する海外派遣危機管理サービスとの契約を更新し、海外派遣学生全員に加入を義務付けている。

(3) 事務職員能力強化

(ア) 英語研修（2-2-1①(1)(ア)にも記載あり）

期間：（英会話研修） 平成27年12月～平成28年2月

海外留学派遣及び留学生受入れへの事務対応力強化のために、学外語学学校に授業を委託し、グループによる英会話研修を15名に提供し、受講後、TOEIC試験を行った。

(4) 履修支援環境改善

(ア) 英語版シラバス

留学生の多い修士/博士課程では日本語版とともに英語版シラバスを用意した。

(5) 成果の公表・普及

(ア) ウェブサイト/フェイスブック/ツイッター

本取組み専用のWebsite（www.tmd.ac.jp/global）を改修し、日本語及び英語にて、取組みの実施状況（開催報告、進捗状況報告、開催予定情報提示）についての情報発信を行った。そして、同Websiteの閲覧情報をGoogle

Analyticsによりモニターし、改善に努めた。またFacebook (<https://www.facebook.com/TMDUGlobalEducation>) 及びTwitter (<https://twitter.com/TMDUGlobalEd>) アカウ
ントも活用し、本取組み専用Websiteとリンクさせ、効率
的・効果的な情報発信に努めた。

(6) 構想の評価・改善

(ア) 外部評価

北米・欧州・アジア・日本において、医療/医学分野におけるグロー
バル化を推進している又は精通している人材合計7名よりなる外部評価
委員会（組織後、欧州委員が辞退したため現在6人により構成）による
本事業の中間評価を平成27年3月21日に行った。本事業5年分の総括評
価は平成29年1月に実施を予定している。

(7) その他

(ア) HSLPコース開講式開催

日時：平成27年10月13日

Health Sciences Leadership Programの第2期生に対する開講式
を、本学M&Dタワー8階のグローバルキャリア支援室G-Labにて開
催した。式において、江石医学部長及び森山歯学部長より力強いエ
ールを頂き、履修生16名は医学・医療の分野に変革を起こすべく、
世界を相手に、そして世界を舞台に活躍することを目指して、長い
道のりに確かな第一歩を踏み出した。



(イ) Go Global Japan Expo参加

日時：平成27年12月20日

文部科学省主催のGo Global Japan Expo（グローバル関連事業採
択校47大学の合同進学・留学・キャリアに関する相談・体験イベン
ト）が明治大学において開催され、本学の取組みの紹介や留学を希
望する高校生や保護者の質問等に対応した。

(ウ) 東日本第2ブロックイベント

日時：平成27年11月21日

東日本第2ブロックイベントとして亜細亜大学において、グローバル人材育成フォーラムが開催された。第二部「アジアそして世界の未来を創る『協働プロジェクト』」をテーマにした選抜学生チームによる英語プレゼンテーション（第1次選考対象15チーム、本戦8チーム）に本学学生5名が参加し、優勝した。



2-2-3. 大学の世界展開力強化事業

平成24年度に選定された「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」は、東京医科歯科大学が、タイのチュラロンコーン大学、インドネシアのインドネシア大学及びベトナムのホーチミン医科薬科大学と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先端的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤として、東南アジアにおいて大学間交流を推進し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組みである。

本事業の目的は、医歯学領域において、国際的にリーダーシップのとれる自立型の若手研究教育者・医療者を育成する『人材育成』、及び東南アジア各国の主要大学との学術・人材交流を通じて、東南アジア地域における医療・歯科医療ネットワークを形成する『ネットワーク構築』である。事業が始まって4年目となる平成27年度の具体的な活動内容は以下のとおりである。

①. 国際学会の実施

(1) 国際シンポジウム

国際シンポジウムV「国際交流プログラムを通して学んだこと」

“What We Learned and What We Thought through the International Exchange Programs”

場所：東京医科歯科大学 5号館4階 体育館

日時：平成27年10月23日（金）12:50-15:55



森山歯学部長からの開会の辞



司会を務めた真山くん、岡部さん



インドネシアの民族歌謡・舞踊の披露



華やかなタイの民族舞踊

(2) 国際セミナー

国際セミナーVIII 「東南アジアにおける口腔保健と歯学教育の動向」

“Oral Health and Dental Education in Southeast Asia”

場所：歯科外来事務棟4階演習室

日時：平成27年10月21日（水）10:00-11:30

(3) 国際セミナー

国際セミナーIX 「若手研究者による講義シリーズ」

English Lecture Series on Dental Science and Education
by Young Academic Staff

場所：歯科外来事務棟4階演習室

日時：平成27年10月14日（月）～22日（木） 9:00-9:30



高齢者歯科 猪越助教による英語講義

②. 学生交流プログラム（派遣・受入）の実施

平成27年度は、本学全体で43名の本学学生を海外に派遣し、40名の海外学生を受け入れた。

(1) 医学部

医学科では、2名の日本人学部学生が5カ月間タイの教員の指導の下で研究プログラムに従事し、2名のタイの学部学生が約1カ月間本学で、本学教員指導のもと研究プログラムに従事した。保健衛生学科では、4名のタイの学部学生を受け入れ、学生交流プログラムの幅が広がった。医学部の受入れでは、研修に参加した外国人学生に対し単位が認定された。

(ア) 派遣プログラム

プログラム名	派遣学生	研修内容
プロジェクトセメスター (平成27年5月10日～11月13日)	医学科4年2名	学生2名がチュラロンコーン大学医学部解剖学教室及び生理学教室にそれぞれ配属され、タイ人教員の指導の下で、基礎研究、文化交流を行った。

タイでの学術交流 (平成 27 年 5 月 10 日～25 日)	保健衛生学科 2 名	現地教員の指導のもと、チュラロンコーン大学附属病院見学、ラボワーク、学術交流を行っただけでなく、文化交流などを行った。
タイでの学術交流 (平成 27 年 8 月 26 日～9 月 10 日)	保健衛生学科 2 名 大学院 2 名	現地教員の指導のもと、チュラロンコーン大学附属病院見学、英語講義受講、スキルスラボでの研修などを行った。その他、文化交流や学生交流を行った。

(イ) 受入れプログラム

プログラム名	派遣学生	研修内容
保健衛生受入れプログラム (平成 27 年 7 月 26 日～8 月 4 日)	チュラロンコーン大学大学院生 6 名、 保健衛生学科 2 名	本学医学部研究室に配属され、病院見学および本学教員の指導の下で研究、学術交流、文化交流などを行った。
医学科学生受入れ (平成 28 年 2 月 22 日～3 月 18 日)	チュラロンコーン大学医学科 2 名	本学医学部皮膚科、周産・女性診療科にそれぞれ配属され、本学教員の指導の下でラボワーク、病院見学、学術交流、本学学生との文化交流などを行った。

(2) 歯学部

歯学部においては交流相手大学としてシドニー大学（オーストラリア）を追加し、学生派遣と受入れを行った。平成27年度は8名の学部学生がタイで、5名の学部学生がインドネシアで、そして16名（学部学生14名、大学院生2名）がベトナムで、8名（学部学生7名、大学院生1名）の学部学生がオーストラリアで歯科研修プログラムに参加した。プログラムに参加した歯学科学生はデンタルエクスターンシップ1単位を取得した。大学院生及び口腔保健学科学生は海外研修への参加を修了要件の一つとして扱った。

受入れに関しては、タイ、インドネシア、ベトナムから計30名の歯学科学生を2週間同時期に受け入れ、英語による歯科研修プログラム（TMDU Dental Training Program）を実施した。このプログラムでは、日本人学生との交流、基礎・臨床分野における研修、歯科関連企業の見学等とともに、日本学生を含む全4ヵ国・5大学の学生によるチームアクティビティ等、実践的なプログラムを執り行った。さらに、本学学生および外国人学生が、自国の大学においてカリキュラムの一環として行った自身の研究について英語で口演或はポスター発表を行い、コンペティションを行うリサーチデーを実施した。基礎分野、臨床分野も含め、様々な研究内容について活発な質疑応答が行われた。歯学部の受入れでは、チュラロンコーン大学及びシーナカリンウィロート大学においては、研修に参加した外国人学生に

たいして単位が認定された。他の大学においては、検討段階である。

また、交流プログラムに参加した、3ヵ国4大学の外国人学生を対象としたアンケート調査から、専門分野での研修以外に学生同士の交流、お互いの文化を紹介しあう文化交流などを通して、タイ・インドネシア・ベトナム・日本の学生が交流する機会を持つことができ、学生にとって満足度の高い研修であったことが示された。また、短期間研修を行う中で、本学の博士課程進学に関心を示す者も現れ、研修期間中に興味のある専門分野の教員にコンタクトを取り、大学院進学について相談や面談を受ける学生もみられた。



シドニー大学研修での病院見学



インドネシア大学研修でのスキルスラボ実習



ホーチミン医科薬科大学研修での
地域歯科保健実習



シーナカリンウィロート大学研修の様子



顔のデッサンを使ったゲームで交流



受け入れプログラム閉会式での各国の豪華な民族衣装

(ア) 派遣プログラム

プログラム名	派遣学生	研修内容
ホーチミン医科薬科大学矯正学術交流会 (平成 27 年 4 月 13 日～15 日)	大学院生 2 名	ホーチミン医科薬科大学に派遣され、現地で開催される歯科学会にて矯正治療に関するセミナーおよび学術発表を行い、学術交流、文化交流を行った。
オーストラリア歯科研修プログラム (平成 27 年 7 月 18 日～27 日)	歯学科 6 年 7 名	シドニー大学に派遣され、現地教員の指導のもと、大学見学、病院見学、英語講義の受講、研究室見学、学術交流、文化交流を行った。
インドネシア歯科研修プログラム (平成 27 年 8 月 28 日～9 月 5 日)	歯学科 3 年生 5 名	インドネシア大学に派遣され、現地教員の指導のもと大学見学、スキルスラボ実習、インドネシア大学学生との PBL 実習、文化交流、学生交流を行った。
グローバルリトリート (平成 27 年 9 月 4 日～6 日)	歯学科 3 年生 4 名、 4 年生 1 名、5 年生 5 名、 口腔保健衛生学科 4 年生 4 名 インドネシア大学学生 5 名、 チュラロンコーン大学学生 6 名、 ホーチミン医科薬科大学学生 10 名、 教職員 12 名	国を交えて学生同士が寝食を共にしながら合宿形式で研修・交流を行うグローバルリトリートを、ベトナムで開催した。ベトナム、タイ、インドネシア、日本の 4 カ国の学生が小グループに分かれ、教員の指導のもと、「歯科教育・臨床における倫理」に関するディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイを行った。また、文化交流会では、各国の学生が伝統的な踊りや歌を披露し、学生交流と共に学生が国際理解を深める活動を行った。

ベトナム歯科研修プログラム (平成 27 年 8 月 29 日～9 月 6 日)	歯学科 3 年生 4 名、 4 年生 1 名、5 年生 5 名、 口腔保健衛生学科 4 年生 4 名	ホーチミン医科薬科大学に派遣され、現地教員の指導のもと大学見学、病院見学、地域保健所見学、癌センター見学などの研修だけでなく、ベトナムの衣装に着替え、歴史について学ぶ文化交流や学生交流を行った。
リサーチデイ (平成 28 年 1 月 23 日～31 日)	歯学科 5 年 2 名	チュラロンコーン大学で開催されたリサーチデイに参加し、研究発表、学術交流、文化交流を行った。
タイ歯科研修プログラム (平成 28 年 3 月 5 日～13 日)	歯学科 4 年 2 名、 3 年 2 名	シーナカリンウィロート大学に派遣され、現地教員の指導のもと大学見学、英語講義の受講、学術交流、地域診療所の見学、文化交流などを行った。

(イ) 受入れプログラム

プログラム名	派遣学生	研修内容
TMDU 歯科研修プログラム (平成 27 年 10 月 12 日～25 日)	チュラロンコーン大学学生 8 名、 シーナカリンウィロート大学学生 6 名、 インドネシア大学学生 8 名、 ホーチミン医科薬科大学学生 8 名	本学において TMDU 歯科研修プログラムを開催し、日本を含めた 4 カ国 6 大学の学生のための交流プログラムを実施し、計 30 名の歯学部生を 2 週間同時に受け入れた。日本人学生との交流、小グループでの基礎・臨床分野における研修、歯科関連企業の見学だけでなく、今年度から新たに取り入れられた学生がチームになってお互いの似顔絵をデッサンし合うチームアクティビティなどを行った。

③. 今後の学術交流プログラムに関する打合せ

歯科研修プログラム (TMDU Dental Training Program) の引率として来学した 3 カ国 4 大学の教員 4 名と、国際教育プログラムに関する打合せ会議を行った。また、ベトナムへの学生派遣時に引率した本学教員と現地の教員との間で、今後の学術交流プログラムに関する打合せを行った。

④. 事業の広報・普及活動

ホームページの更新を行い、研修の写真や報告書を掲載し、本事業の取組みを紹介した。

⑤. グローバルリトリートの開催

平成 27 年度はグローバルリトリートをベトナムで実施し、日本、ベトナム、インドネシア、タイの学生・教職員 48 名が寝食を共にし、ワークショップや文化交

流等を行った。学生交流プログラムに参加した本学学生を対象に行ったアンケート調査から、英語を使ったコミュニケーションに自信を深め、異文化に対する理解が進み、国際交流への関心が高まり、将来留学を希望する学生も増加した。



今年度のグローバルリトリートはベトナムで開催

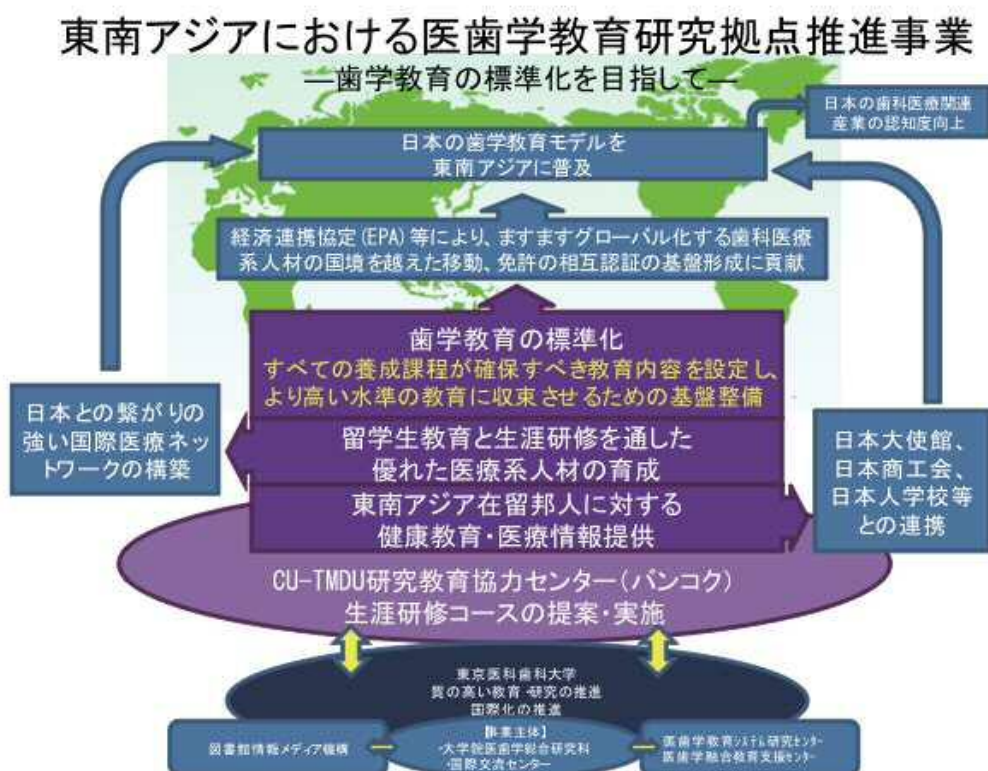
2-2-4. 東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業 -歯学教育の標準化を目指して-

【事業概要】

本事業は、東南アジアに医歯学教育研究拠点を形成することで、先進的な共同研究、双方向の研究者・学生交流を通じた東南アジアにおける医療ネットワークの構築を推進すると共に、歯学教育の標準化を視野に入れた医歯学教育研究の国際的な展開を目指し、平成24年度から4年間行われた。

本学歯学部・大学院医歯学総合研究科は、タイとの間で平成8年から17年の10年間にわたる拠点大学交流（歯学）事業を実施するなど、共同事業に取り組むとともに、これまで多くの留学生をタイから受け入れてきた経緯を持つ。平成21年11月にチュラロンコーン大学長と本学学長によって交わされた合意書に基づき、チュラロンコーン大学ー東京医科歯科大学研究教育協力センターを、平成22年11月23日にチュラロンコーン大学歯学部内に設置した。同センターが中心となり、また国際交流センターと大学院医歯学総合研究科が実施主体となって、本事業の五つの取り組みを推進した。

- ①. 東南アジアの歯学教育の標準化に向けた取り組み
- ②. 東南アジア歯科医療従事者に対する生涯研修コースの提案・実施
- ③. 東南アジアからの留学希望者に対する留学情報提供
- ④. 東南アジア在留邦人や日本人学校に対する健康教育や医療情報の提供
- ⑤. 情報通信システムの整備



【本年度の成果】

①. 東南アジアの歯学教育の標準化に向けた取り組み

- ・平成27年5月21-22日にチュラロンコーン大学主催のチュラロンコーン大学歯学部75周年記念シンポジウムのなかで開催されたASEAN Dental Forumにおいて、田上理事による招聘講演が行われた。

(1) Harmonization in Dental Education

田上順次理事・副学長（教育・学生・国際交流担当）

- ・平成27年8月12-15日にインドネシア・バリ島にて開催された「第26回東南アジア歯科医学教育学会年次会議（26th Annual Scientific Meeting South East Asia Association for Dental Education (SEAADE)」及び「第29回国際歯科研究会東南アジア地区年次会議（29th Annual Scientific Meeting International Association for Dental Research Southeast Asia Division (IADR SEA)」(SEAADE-IADR SEA 2015) において歯学部長会議が行われた。本学からは森山啓司歯学部長が参加し、医療サービス自由化に向け歯科医師免許の相互認証のために歯学教育の標準化の再確認、調整がなされた。
- ・平成27年12月24-28日の日程で東南アジア歯学教育標準化委員会を開催し、インドネシア、ミャンマー、タイから4名を招聘し、以下の点について協議した。また、各国の歯科教育の現状について発表が行われた。
- 平成 27 年 5 月 22 日のバンコク宣言以降の各国・各歯科大学での取り組みについて
- 各国の卒前歯学教育コンピテンシー策定の状況について
- ASEAN 域内の歯学教育認証制度構築の可能性について
- ASEAN MRA（歯科医師免許の相互認証）を見据えた各歯科大学での教育改革について
- 各歯科大学の卒後教育について（専門医制度と卒後教育プログラムを中心に）
- 日本の歯学教育認証評価の受審状況について（情報提供）
- 各歯学部教育における臨床実習にあり方について
- ASEAN 域内の歯学教育標準化に関する今後の動向について（各国のAJCCDの活動など）
- 日本からAJCCD会議への参加の可能性について
- タイの卒後教育・専門医制度についての情報共有
- タイにおける歯科医師国家試験改革について
- 今後の本学との国際教育における協力体制について（新たなプロジェクト）
- 学生交流について



②. 東南アジア歯科医療従事者に対する生涯研修コースの提案・実施

・平成27年5月21-22日にチュラロンコーン大学主催のチュラロンコーン大学歯学部75周年記念シンポジウムにおいて、生涯教育セミナーを開催した。

(1) TMDU Faculty of Dentistry, Cultivating Professionals with Knowledge and Humanity, thereby contributing to People's Well-Being

森山啓司教授（顎顔面矯正学分野）

(2) Recent Challenges in Mechanical Stress Analyses for Optimization of Restorative and Prosthodontic Biomaterials

若林則幸教授（部分床義歯補綴学分野）

(3) Application of Synchrotron Radiation X-ray for the Clinical Diagnosis

宇尾基弘教授（先端材料評価学分野）

(4) Basic Study Focused on Fitting Accuracy of Thermoplastic Resin for Non-Metal Clasp Denture

和田淳一郎助教（部分床義歯補綴学分野）

(5) Immunohistochemical and Gene-expression Analysis of Pulp Injury-induced Glial Cell Activation in the Rat Thalamus

河村隼助教（歯髄生物学分野）

(6) In Vitro Cytotoxicity of Mussel-Mimetic Bio-adhesive Polymers in Comparison with Conventional Dental Materials

平石典子特任助教（国際交流センター）



- ・平成27年6月1-2日にベトナム・ホーチミン医科薬科大学にてTMDUの元留学生を含む歯科医療従事者・教育者対象の生涯研修セミナー及び教材作成ハンズオンセミナーを実施し、同大学歯学部教員26名（内、講義のみの聴講2名）が参加した。（木下淳博図書館情報メディア機構長）



- ・平成28年1月24-28日、ミャンマーの第36回ミャンマー歯科学会及び地元幼稚園、ミャンマー歯科医師会等において生涯教育セミナーの講演を行った。

(1) Strategies and Approaches for Tackling Early Childhood Caries (ECC)

川口陽子教授（健康推進歯学分野）



- ・平成28年1月27-31日、ミャンマーの第36回ミャンマー歯科学会において生涯教育セミナーを行い、講演及び一次救命処置の講義と実践が行われた。（深山治久教授（麻酔・生体管理学分野））

(1) Education of Anesthesia in Dentistry

深山治久教授（麻酔・生体管理学分野）

(2) Waveform of End-tidal Carbon Dioxide is Useful to Detect Hypopnea during Intravenous Sedation

脇田亮准教授（麻酔・生体管理学分野）

(3) Enhancement of Analgesic Effect by Combination of Non-noxious Stimulation and Noxious Stimulation in Humans

阿部佳子講師（麻酔・生体管理学分野）

③. 東南アジアからの留学希望者に対する留学情報提供

- 平成27年8月12-15日にインドネシア・バリ島で開催された「第26回東南アジア歯科医学教育学会年次会議（26th Annual Scientific Meeting South East Asia Association for Dental Education (SEAADE)）」及び「第29回国際歯科研究会東南アジア地区年次会議（29th Annual Scientific Meeting International Association for Dental Research Southeast Asia Division (IADR SEA)）」（SEAADE-IADR SEA 2015）において本学大学院医歯学総合研究科博士課程（歯系）留学相談ブースの出展を行い、留学相談を行うと共に本学への留学勧奨に努めた。本学への留学に関心のある人やTMDU同窓生など、多数の訪問者で賑わった。
- 平成27年8月28日-9月3日に本学で開催され第7回TMDU国際サマープログラム（ISP2015）に東南アジアから学生・若手研究者14名を招聘し、留学相談会を行った。



④. 東南アジア在留邦人や日本人学校に対する健康教育や医療情報の提供

- 平成27年6月13日にバンコクの在留邦人を対象とした「第2回家族の健康セミナー」（巻末資料）を開催した。海外生活での健康不安が少しでも解消するように、がん検診や最新の心療内科治療、そして虫歯治療について、セミナーを行なった。



- 平成27年7月27日にジャカルタ日本人学校において、その保護者を対象とした「お口の健康セミナー・歯科個別相談会」を開催し、乳歯の虫歯や歯並び等に関する講演会、大人と子供の歯についてのワークショップ、個別相談会を実施した。

⑤. 情報通信システムの整備

以下の情報通信システムによる、録画した内容をオンデマンド配信するシステム等を活用した。

(1) 同時中継講義システム一式

東南アジアの協定校のうち、チュラロンコーン大学、ホーチミン医科薬科大学、インドネシア大学及び本学内に設置されている同時中継講義システム(TV会議システム) について、利用申請・報告等の手続きを整備した。

本年度の運用実績は以下のとおり。

- (ア) 平成27年6月1日：シミュレーション教材を用いた生涯研修セミナー事前確認・リハーサル（接続先：ホーチミン医科薬科大学）
- (イ) 平成27年6月2日：シミュレーション教材を用いた生涯研修・ハンズオンセミナー（接続先：ホーチミン医科薬科大学）
- (ウ) 平成27年4月7日：歯学部学年混合セミナー中継（接続先：インドネシア大学）

2-2-5. ジョイント・ディグリー・プログラム (JDP) の開設

国立大学法人東京医科歯科大学はグローバル人材育成の観点から、チリ大学及びチリ大学関連病院であるクリニカ・ラス・コンデス病院と「ジョイント・ディグリー・プログラム開設に関する協定」、チュラロンコーン大学と「ジョイント・ディグリー・プログラム開設に関する協定」を締結し、各々の大学と共同で2つの大学院プログラムをそれぞれ開設した。

【チリ大学及びクリニカ・ラス・コンデス病院】

- 東京医科歯科大学、チリ大学、チリ大学関連病院であるクリニカ・ラス・コンデス病院が連携し、高等医学教育、専門的医療教育のグローバル化を見据えた新たな体系のプログラムを構築する。
- 5年間の標準修業年限内で、学位取得に向けた質の高い研究と、臨床専門医レベルの高度専門的医療人としての技術を身につけられるカリキュラムを提供する。
- 高度の専門的医療人すなわち、臨床医学・医療の本質を理解したプロフェッショナルであるとともに研究者としての視点・資質をも有する人材を育成することが可能となる。

【チュラロンコーン大学】

- 東京医科歯科大学、チュラロンコーン大学が連携し、歯学、特に歯科矯正学の分野に特化した一つの大学だけでは提供できない魅力ある新たな体系のプログラムを構築する。
- 5年間の標準修業年限内で、学位取得に向けた質の高い研究と、歯科臨床専門医レベルの高度専門的医療人としての技術を身につけられるカリキュラムを提供する。
- 国際的リーダーになりうる高度の専門的医療人すなわち、臨床歯学・歯科医療の本質を理解したプロフェッショナルであるとともに研究者としての視点・資質をも有する人材を育成する。

【調印式開催概要】

〔日 時〕 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 14:20-16:35

〔場 所〕 東京医科歯科大学 湯島キャンパス M&D タワー26 階

〔内 容〕 (第一部) 14:20-14:50

- ・ 協定調印の趣旨・経緯 ご説明

(第二部) 15:00-16:35

- ・ 合同調印式 (チリ/タイ)
- ・ 来賓挨拶
- ・ 調印及び写真撮影
- ・ 質疑応答

〔出席者〕 ○東京医科歯科大学

吉澤 靖之 （学長）ほか 2 名

○チリ大学

エンニオ・ビバルディ （学長）ほか 2 名

○クリニカ・ラス・コンデス病院（チリ）

ゴンサロ・グレーベ （CEO）ほか 3 名

○チュラロンコーン大学（タイ）

プールソン・スーチット （歯学部長）ほか 3 名

〔来 賓〕 常盤 豊（文部科学省高等教育局長）

パトリシオ・ベッカー（駐日チリ共和国大使館 公使参事官）

パカワット・タンサクン（在東京タイ王国大使館 公使）

宮本 哲二（外務省南東アジア第一課長）

大山 喬史（東京医科歯科大学前学長）

2-2-6. 公益財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業

本事業では、地域における外国人留学生と日本人等住民との相互理解促進を目的に、専門日本語コースの開設、多言語会話集の作成を行った。

①. 事業の実施の概要

専門日本語コース「医歯学日本語」

歯学部大学院留学生で、日本語能力試験N3以上の日本語能力を持つ留学生を主な対象とした「医歯学日本語コース」では、医歯学で使用される日本語について理解を深めること、日本語能力試験N2以上の専門的な日本語能力を身につけることを目標に、9ヶ月間で計14回の授業を行った。



専門家からの助言や協力を得、歯学分野で学ぶ留学生を対象とした専門分野に関する講義を歯科医師や専門家に依頼するとともに、各講義の内容に基づく日本語教育用の教材を作成し、日本語の授業を行った。以下の講師を招き、講義を依頼した。

矢澤正人先生（新宿区健康部）

竹原祥子先生（東京医科歯科大学健康推進歯学分野）

山本晴美先生（東京医科歯科大学健康教育学分野）

その他、教材は医療にまつわる時事ニュースや映画等を基に作成した。

多言語会話集

歯科病院で必要となる会話をおさめた会話集で、歯学部附属病院で使用されることを念頭に作成した。そのため、附属病院や附属病院のある文京区内の実情を反映し、日本語の会話集を基に、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、ミャンマー語、ネパール語、アラビア語版を作成した。翻訳は上記コース履修者及び歯学部在籍する留学生に依頼した。会話集は歯科医師と患者の会話がスムーズに行われるよう、全て指差しで会話できるよう設計した。今後、必要な手続きを経て、附属病院内に設置する予定である。



②. 事業の成果及び今後の展望

本事業は、留学生に対しては、歯学分野と日本語教育とを結びつけることで、意味のある教育を効率的に提供することができ、結果として、留学生生活の充実度の向上に繋がったのではないかと考えられる。また、地域在住の外国人にとっては、歯科医療サービスへのアクセスを容易で安心できるものへと変えることへと繋がるのではないかと考えている。また、表面的な変化だけではなく、大学や病院における留学生と地域在住の外国人に対する意識の変化も今後影響を与えていくと期待している。

今後は引き続き医学歯学分野で学ぶ留学生を対象とした専門日本語教育について内容の検討及び方法の検討を行い、質の向上を図るとともに、多言語化する医療現場について理解を推進していきたいと考えている。

③. 中島財団助成金を得たことによる具体的な効果

本助成金を得、上記事業を実施できたことは、本学で学ぶ留学生にとって、専門的な日本語を学ぶ機会の創出に繋がったとともに、自身の言語に会話集が翻訳されることにより、自尊心向上へも繋がったと考えられる。また、地域に住む外国人への医療サービスの向上にも繋がっていくと期待している。このような活動は研究を目的とする助成金では難しく、交流や相互理解促進を目的とした中島財団の助成金により、活動できたからこそその効果であると考えている。今後も中島財団の支援を得ながら、地域における国際交流、国際理解の推進に貢献したいと考えている。

3. 地域連携

3-1. 市川市内の学校との交流

市川市は、本学国府台キャンパスがあり、教養部で学ぶ一年次の学生が通学する地であると同時に、キャンパス内に国際交流会館、国際女子学生宿舎、里見寮を持つ。また、少なからぬ留学生が市川市に住むなど、本学及び本学留学生と関係の深い地である。市川市への地域貢献活動の一環として、以下のような概要の活動を行った。

①. 一中フェスタ参加

目 的：市民講師として留学生が中学生の国際理解に貢献すること。

日 時：平成27年10月17日

場 所：市川市立第一中学校

参加者：留学生9名（ベトナム2名、ミャンマー1名、タイ2名、カンボジア1名、ラオス2名 バングラデシュ1名）

引 率：米本和弘助教 今村圭介助教

活動内容：「一中フェスタ」は、市川市立第一中学校が様々な分野の地域住民を講師として招き、中学生達は講演を聴講したり、講演の後に質疑応答したりすることを通して、相互理解を深め、見聞を広めることを目的としている。本学からは留学生9人が講師として参加した。今年度は留学生が計画から実施までを主導し、お互いに英語と日本語で自己紹介した後、伝言ゲームや石探しゲームなど、いくつかのゲームを行った。その後、グループに分かれ、さらに親交を深めた。中学校の生徒は、初めは特に英語で話すのを少し恥ずかしそうにしていたが、留学生たちが上手に会話を引き出していた。

なお、この「一中フェスタ」は教養部（水野哲也教授）との合同で地域交流活動を行っており、水野教授には市川第一中学校との連絡で協力いただいた。統合国際機構からは米本和弘助教が留学生9人を引率した。



毎年、東京医科歯科大学の国際交流センターは市川市立第一中学校で国際的な経験を共にしています。今年、10月17日に私たちはこの中学校に行きました。私たちは心からの歓迎を受けました。初めに学生といっしょにグループディスカッションをしました。英語と日本語でたくさん話したから、わかりやすかったです。それから、私たちはいっしょに遊びました。全部の活動は面白いし、いい案があるし、楽しかったです。この経験はよかったです。次回、機会があれば、皆さんもいっしょに行きましょう。

タッタウェー・ケムウォン（歯周病学／タイ）

②. 昭和学院小学校訪問授業

市川市の私立昭和学院小学校での児童と留学生の交流活動を行った。

概要は以下のとおり。

目 的：市川市の昭和学院小学校において、留学生が講師として自国について紹介し、地域貢献活動をする。活動を通して、日本の小学生の学校生活を知り、小学生と親睦を図り、日本についての理解・親しみを深めること。また、小学生が外国人留学生と交流の体験を持つこと。

日 時：平成27年7月3日（金）、9:50-14:30

場 所：昭和学院小学校 市川市東菅野2-17-1

参加者：平成27年度前期国際交流センター研修生ほか11名（カンボジア1名、イエメン1名、サウジアラビア1名、タイ1名、ウイグル（中国）2名、ラオス1名、ミャンマー2名、中国1名、バングラデシュ1名）

引 率：米本和弘助教 今村圭介助教

活動内容：昭和学院小学校 5 年生 2 クラスにて、午前・午後の 2 時限において、留学生が講義を行い、その後昼食を小学生とともに食べた。午後は小学生から日本文化についての紹介があり、よさこいソーランも披露された。



7月3日（金）、東京医科歯科大学の留学生11人が昭和学院小学校を訪問しました。この前に2回、5年生の小学生たちとお互いに手紙を送った留学生たちは、その日は1日小学校で楽しく充実に過ごしました。

朝から大雨が降っていましたが、昭和学院に入ったら、バルコニーで歓迎していた小学生の姿が見えて、心から暖かくなりました。簡単な挨拶と自己紹介の後、自分たちの発表を始めました。ミャンマー、ウイグル、イエメン、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、サウジアラビア、タイ、中国からの留学生たちが自分の国の生活習慣や食べ物や文字などを紹介しました。小学生たちも日本の自慢のところの写真を見せてくれて、紹介してもらいました。

お昼のとき、皆さんと小学生たちがグループで給食を食べて、学校を案内してもらって、学校を見て回りました。毎日きれいな学校で楽しく勉強している小学生たちは最後、お別れのサプライズとして80人一緒に日本の伝統的な踊りを踊ってくれました。素晴らしいイベントで、お互いにいい勉強になりました。

曹日丹（教育メディア開発学／中国）

3－2．千代田区内の学校との交流

千代田区は、本学駿河台キャンパスがあり、生体材料工学研究所等の施設が存在する。千代田区への地域貢献活動の一環として、以下の活動を行った。

目 的：千代田区立千代田小学校において、留学生が講師として自国について紹介し、地域貢献活動をする。活動を通して、日本の小学生の学校生活を知り、小学生と親睦を図り、日本についての理解・親しみを深めること。また、小学生が外国人留学生と交流の体験を持つこと。

日 時：平成27年2月12日

場 所：千代田区立千代田小学校 東京都千代田区神田司町2-16

参加者：平成27年度後期国際交流センター研修生18名（タイ6名、インド2名、中国2名 ベトナム4名 ミャンマー1名 ガーナ3名）

引 率：米本和弘助教

活動内容：午前は留学生が自国を日本語で紹介し、児童が小学校や豆まきなど日本についての紹介を行った。その後、給食を食べ、午後は副校長の案内で小学校内を見学した。





先週、小学校で友達と日本語でベトナムについて発表しました。最初はこまることがたくさんありました。でも、日本語の先生のおかげでぶじ終わりました。本当に私たちの発表はまだよくないですが、小学生はよく聞いてくれました。とてもうれしかったです。

発表の後で、小学生に日本の文化について話してもらいました。日本語があまりわかりませんでしたが、おもしろかったです。もっと節分や神田まつりについてわかりました。

それから、きゅうしょくを食べました。いろいろな食べ物がありました。スパゲッティとかスープとか牛乳とかです。すごくおいしかったです。食べながら、いろいろな話をしました。たのしかったです。

ご飯の後で、小学校の先生が学校を案内してくれました。このとき、日本の子供が遊んだり、勉強したりするのを見られました。そして、どうやって教室をそうじするか知れました。

この交流は本当によかったと思います。日本語をたくさん練習できました。また、たくさんのことを教えてもらいました。できればいつかもう一度小学校に行ってみたいと思います。

チャン チ スアン ラン（口腔放射線医学／ベトナム）



第2回東京医科歯科大学・バンコク病院 共催

無料「家族の健康セミナー」



開催日: 2015年6月13日(土)

会場: バンコク病院

時間: 14:00~16:30 (13:30より受付開始)
会場: バンコク病院内 8D5会議室(D棟8階)



バンコク病院 ジャパンメディカルサービス



第1部「がんの早期発見:最先端のがん検診」

ワタノソットがん病院 院長 ティラウッド・クハプレマー

東京医科歯科大学医学部卒、日本国医師免許保持。消化器外科医。タイ帰国後はタイ国立がんセンターに勤務、2003年から2013年まで所長を務める。2014年1月よりワタノソットがん病院の院長。日本とタイの医療の架け橋となるべく活動している。東京医科歯科大学客員教授。



第2部「人に言えない心の悩み:最新の心療内科治療」

東京医科歯科大学 准教授 平井伸英

1994年東京医科歯科大学医学部卒業、1998年同大学院修了。都立松沢病院勤務を経て、2009年スタンフォード大学に留学。帰国後、東京医科歯科大学保健管理センター准教授に就任。2014年から同大学の学生支援・保健管理機構学生・女性支援センター長。



第3部「白い歯:最新の虫歯治療」

東京医科歯科大学 助教 保坂啓一

2003年東京医科歯科大学歯学部卒業、2007年同大学院修了(歯学博士)。大学院在籍時、米国ジョージア医科大学に留学。現在東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野助教。歯科保存治療専門医、審美歯科治療認定医、接着歯科治療認定医。

参加費無料、予約必須

ご予約は、1)参加者全員の氏名(ふりがな)と
2)代表者の連絡先 を下記までご連絡下さい。

連絡先: バンコク病院ジャパン・メディカルサービス
Tel: 02-310-3257(毎日 7:00-20:00) Fax: 02-755-1261
E-mail: jpn@bangkokhospital.com

お車でお越しの方、ドライバーにお見せ下さい

กรุณาส่งผู้โดยสารที่โรงพยาบาลกรุงเทพ; 2 ซ. สุขุมวิท 7 ด. เพชรบุรีตัดใหม่

